

## 第6章 男女共同参画社会について

### 1 男女平等に関する法律や用語などの認知状況

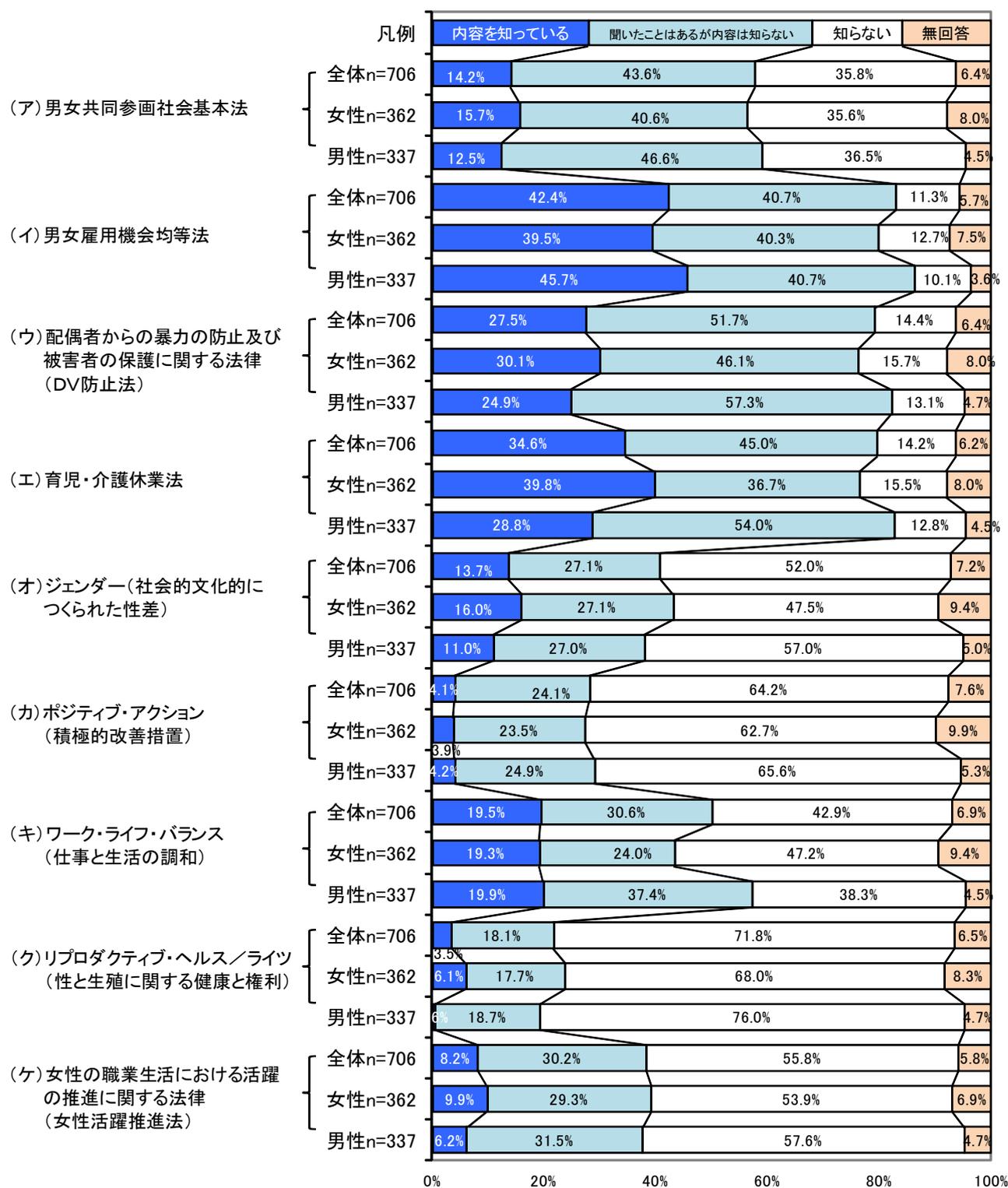
問 20 あなたは、男女共同参画に関する次のような用語を、どの程度ご存じですか。(ア)から(ケ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

#### <全体の結果>

男女平等に関する法律や用語などの認知状況をみると、「内容を知っている」では「男女雇用機会均等法」の42.4%が最も高く、これに「育児・介護休業法」の34.6%、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」の27.5%が続いている。「聞いたことはあるが内容は知らない」では、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」の51.7%が最も高く、これに「育児・介護休業法」の45.0%、「男女共同参画社会基本法」の43.6%が続いている。「内容を知っている」と「聞いたことあるが内容は知らない」を合わせた『認知度』をみると、「男女雇用機会均等法」(83.1%)、「育児・介護休業法」(79.6%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」(79.2%)の順で高くなっている。

一方、「知らない」の割合をみると、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」の71.8%が最も高く、これに「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」の64.2%、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」の55.8%が続く結果となっている。

雇用、DV、育児・介護といった日常生活に関わる用語の認知度は比較的高いが、理念や考え方に関わる用語の認知度が低くなっている。平成28年4月1日に施行されたばかりの「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」の認知度は38.4%で、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が30.2%で比較的高くなっている。



## <前回との比較>

平成 23 年調査と比較すると、「内容を知っている」で 5 ポイント以上の増加した項目は、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(平成 28 年 19.5%、10.7 ポイント増)、「ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)」(平成 28 年 13.7%、5.8 ポイント増)となっている。「聞いたことはあるが内容は知らない」で 5 ポイント以上の増減した項目は、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」(平成 28 年 18.1%、5.5 ポイント増)となっている。

一方、「知らない」で 5 ポイント以上減少した項目は、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(平成 28 年 42.9%、11.6 ポイント減)、「ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)」(平成 28 年 52.0%、9.1 ポイント減)、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」(平成 28 年 64.2%、7.0 ポイント減)、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」(平成 28 年 71.8%、6.5 ポイント減)となっており、男女共同参画に関わる理念や考え方についての認知度も徐々に向上していることがうかがえる。

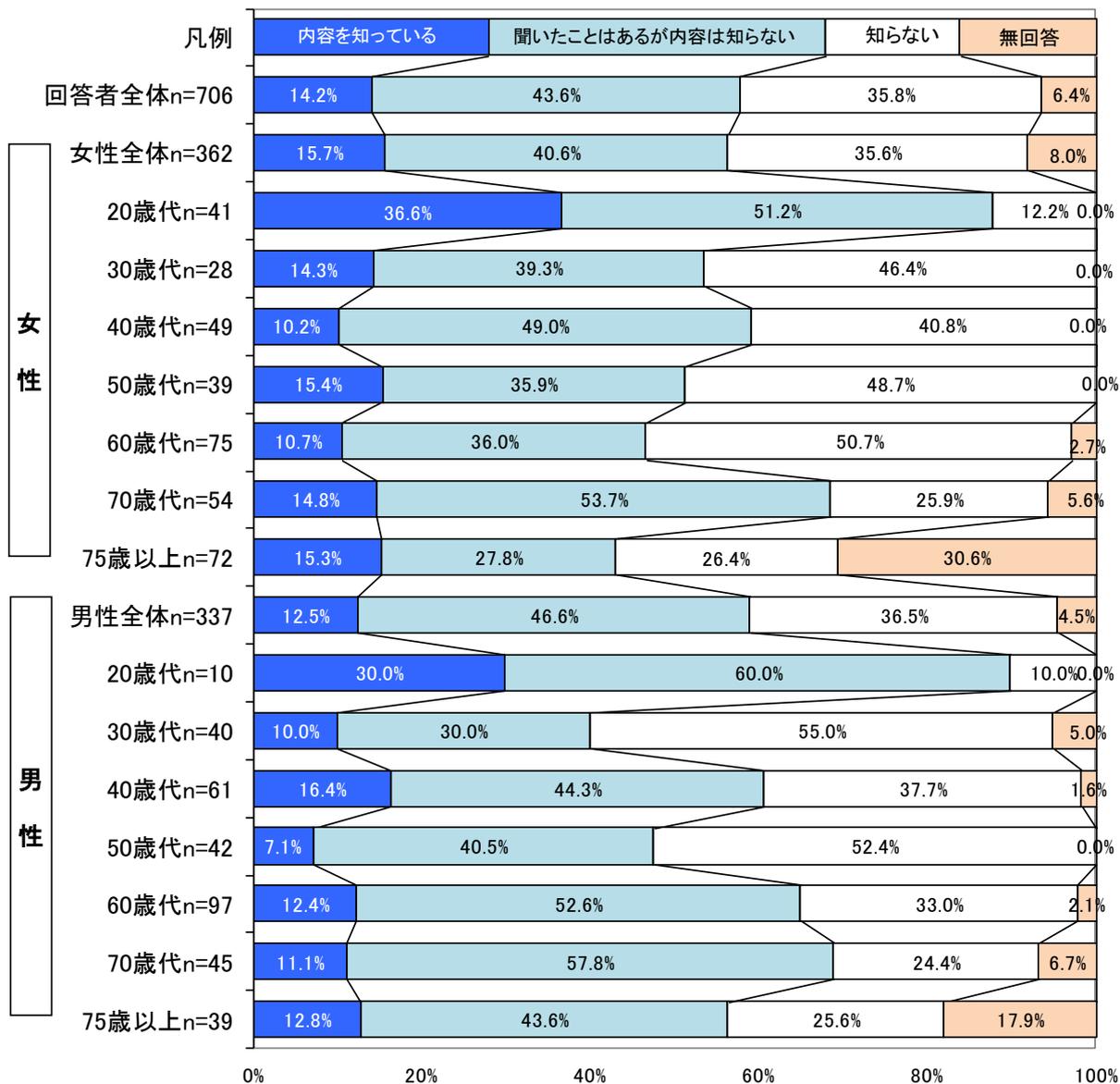
	調査実施年	n	内容を 知っている	が聞いた 内容は知 らはない	知らない	無回答
(ア) 男女共同参画社会基本法	H28年全体	706	14.2	43.6	35.8	6.4
	H23年全体	787	10.7	43.7	39.4	6.2
(イ) 男女雇用機会均等法	H28年全体	706	42.4	40.7	11.3	5.7
	H23年全体	787	41.0	42.8	10.0	6.1
(ウ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	H28年全体	706	27.5	51.7	14.4	6.4
	H23年全体	787	23.4	55.5	15.0	6.1
(エ) 育児・介護休業法	H28年全体	706	34.6	45.0	14.2	6.2
	H23年全体	787	36.8	44.1	12.5	6.6
(オ) ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)	H28年全体	706	13.7	27.1	52.0	7.2
	H23年全体	787	7.9	24.1	61.1	6.9
(カ) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	H28年全体	706	4.1	24.1	64.2	7.6
	H23年全体	787	2.7	19.4	71.2	6.7
(キ) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	H28年全体	706	19.5	30.6	42.9	6.9
	H23年全体	787	8.8	29.9	54.5	6.9
(ク) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	H28年全体	706	3.5	18.1	71.8	6.5
	H23年全体	787	2.4	12.6	78.3	6.7
(ケ) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	H28年全体	706	8.2	30.2	55.8	5.8
	H23年全体	787	-	-	-	-

## <性別及び性・年代別にみた結果>

### 「(ア)男女共同参画社会基本法」

性別にみると、「男性」で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」よりやや高く、「女性」では「内容を知っている」の割合が「男性」よりやや高い。

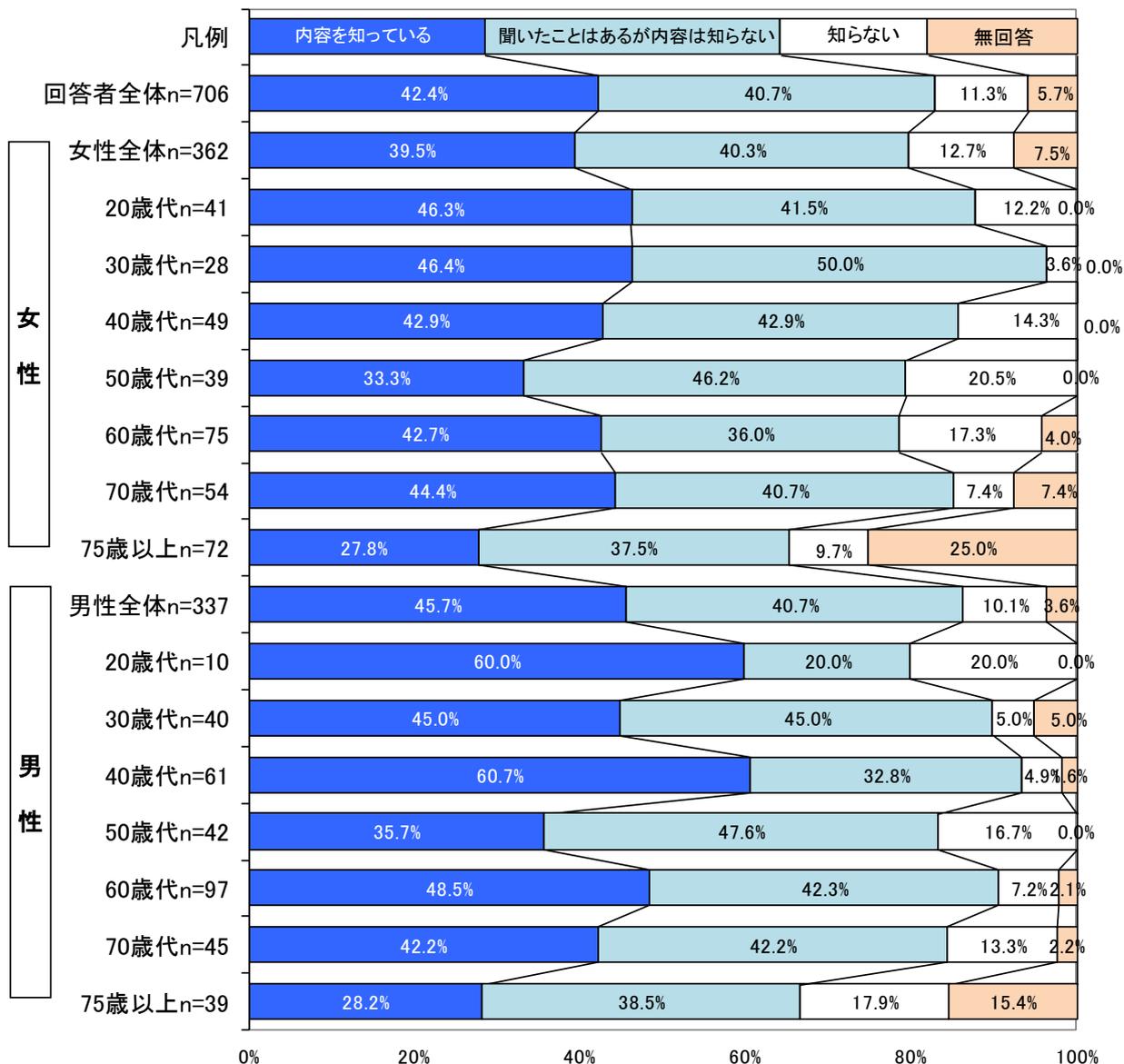
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高く、認知度が高い。「女性」の『30～60歳代』では「知らない」の割合が高くなっている。



### 「(イ)男女雇用機会均等法」

性別にみると、「男性」で「内容を知っている」の割合が「女性」よりやや高くなっている。

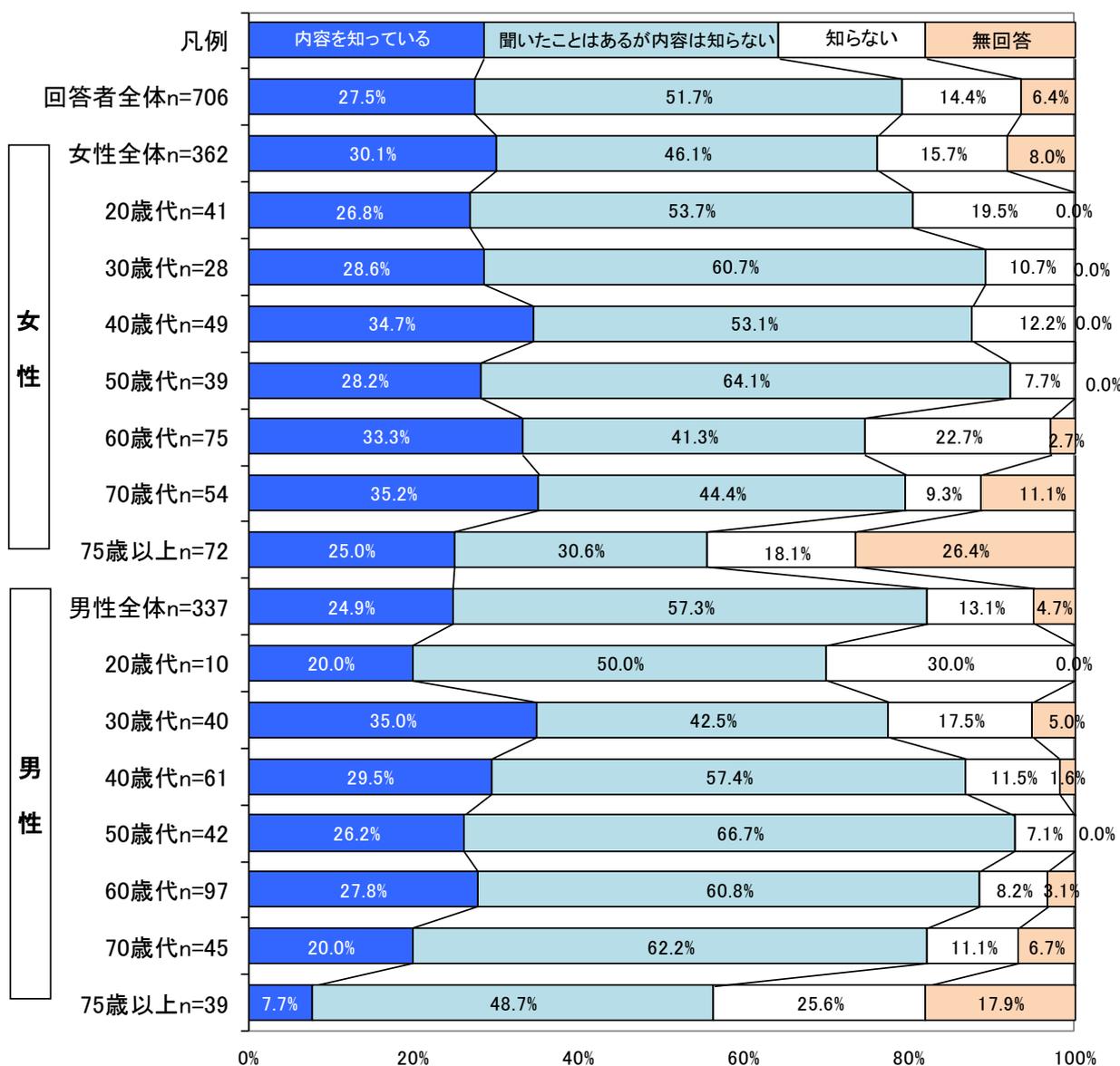
性・年代別にみると、「男性」の「40歳代」と「60歳代」では「内容を知っている」の割合が高く、「女性」の『50～60歳代』では「知らない」の割合が高くなっている。



### 「(ウ)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」よりやや高く、「男性」では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」よりやや高い。

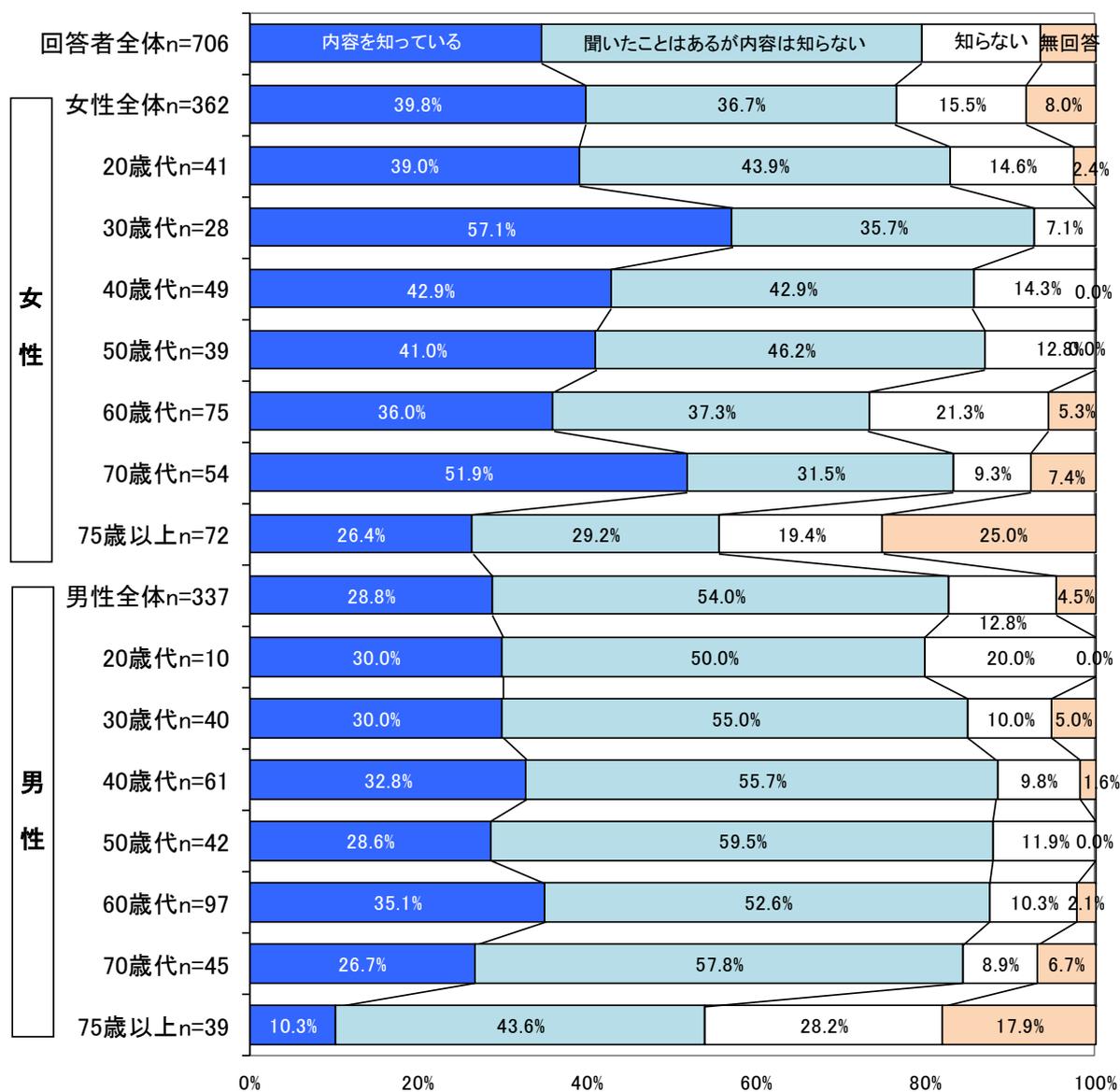
性・年代別にみると、「女性」の「40歳代」と『60～70歳代』では「内容を知っている」の割合が高い。「男性」の『40～70歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



## 「(エ) 育児・介護休業法」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」より高くなっている。

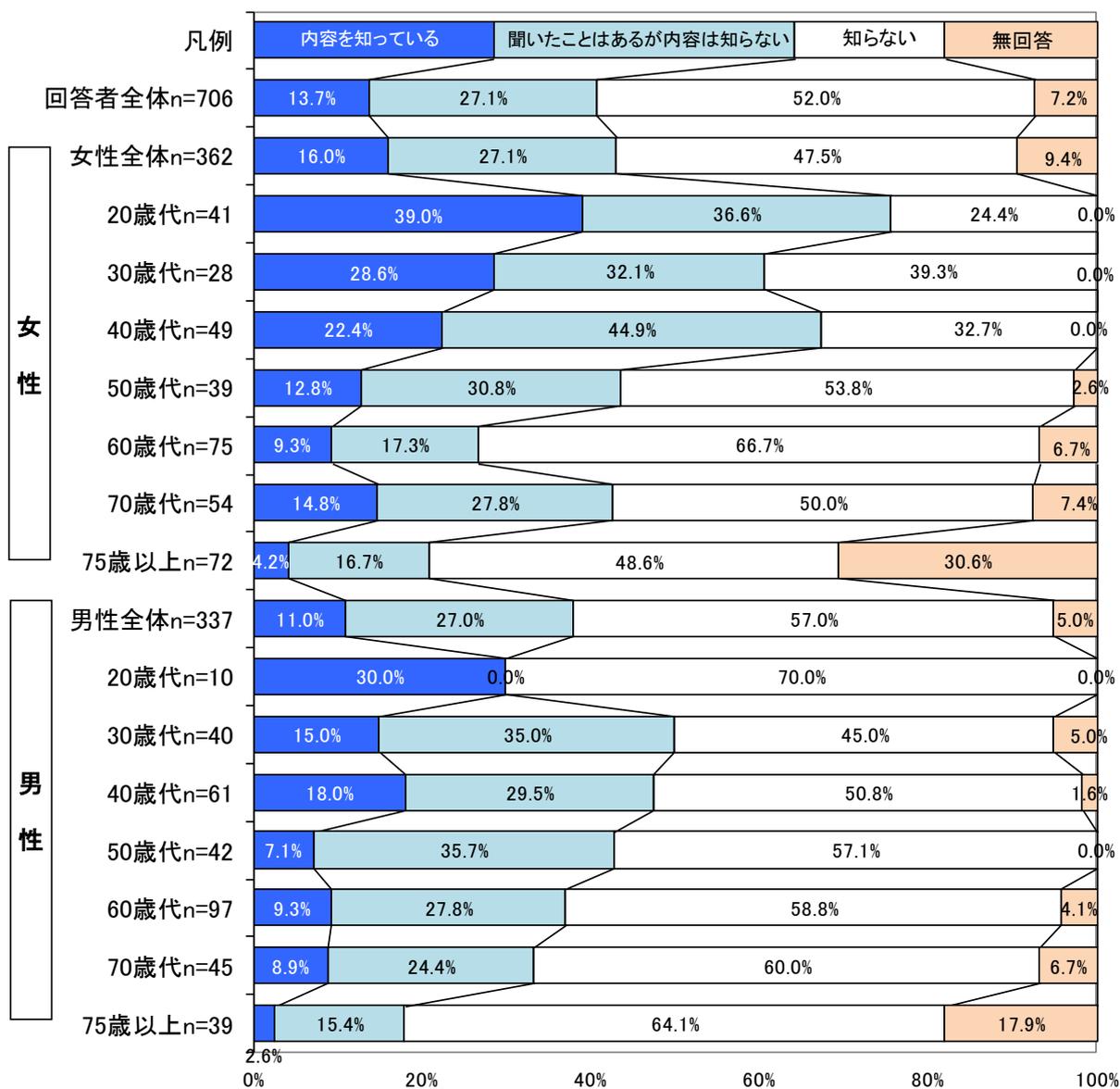
性・年代別にみると、「女性」の『20～50 歳代』と『70 歳代』では「内容を知っている」の割合が高く、「男性」の『30～70 歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



## 「(オ)ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」より高く、「男性」では「知らない」の割合が高くなっている。

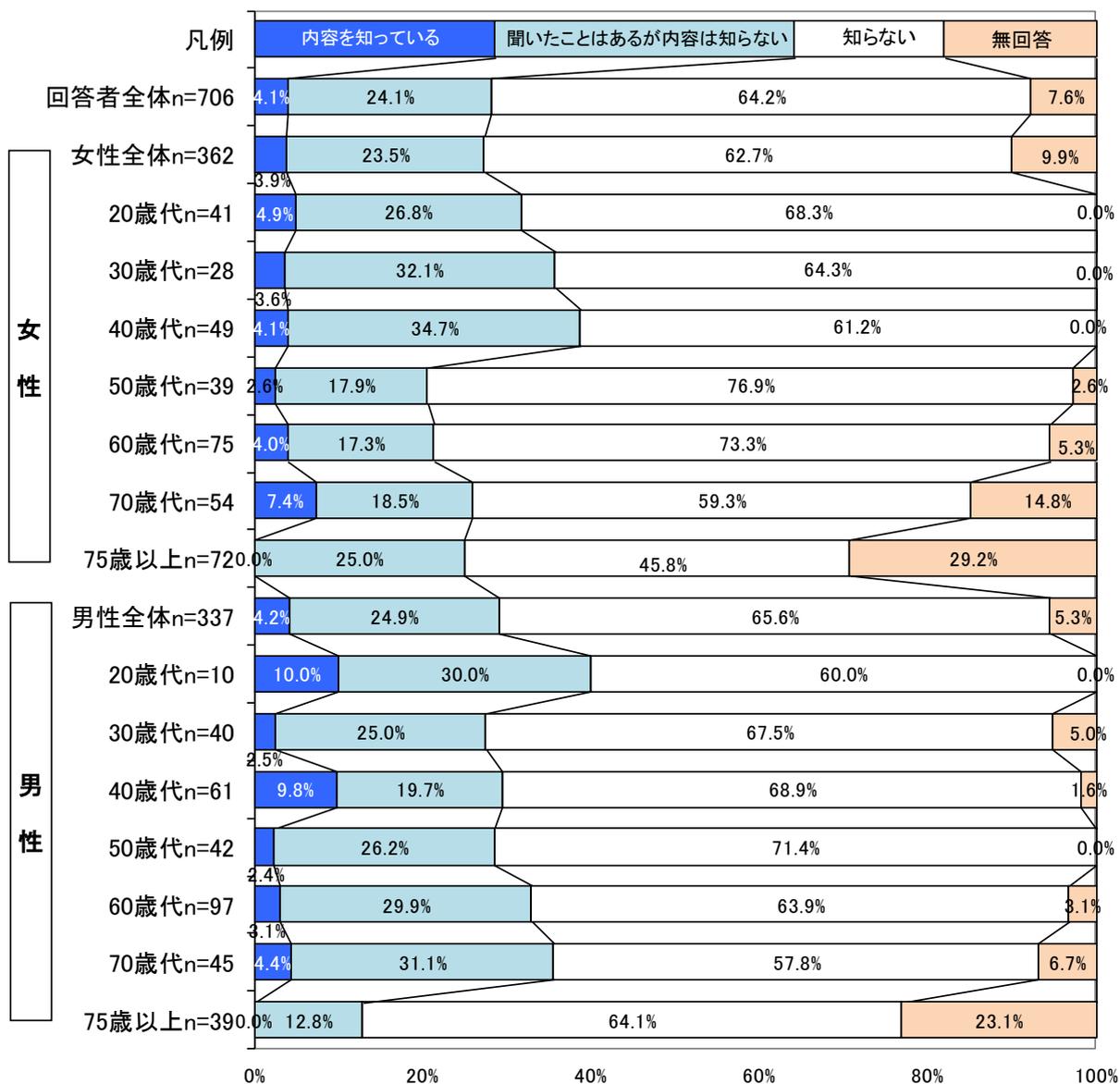
性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』では「内容を知っている」の割合が高く、「男性」の『50 歳代以上』では「知らない」の割合が高くなっている。



## 「(カ) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」

性別による差は認められない。

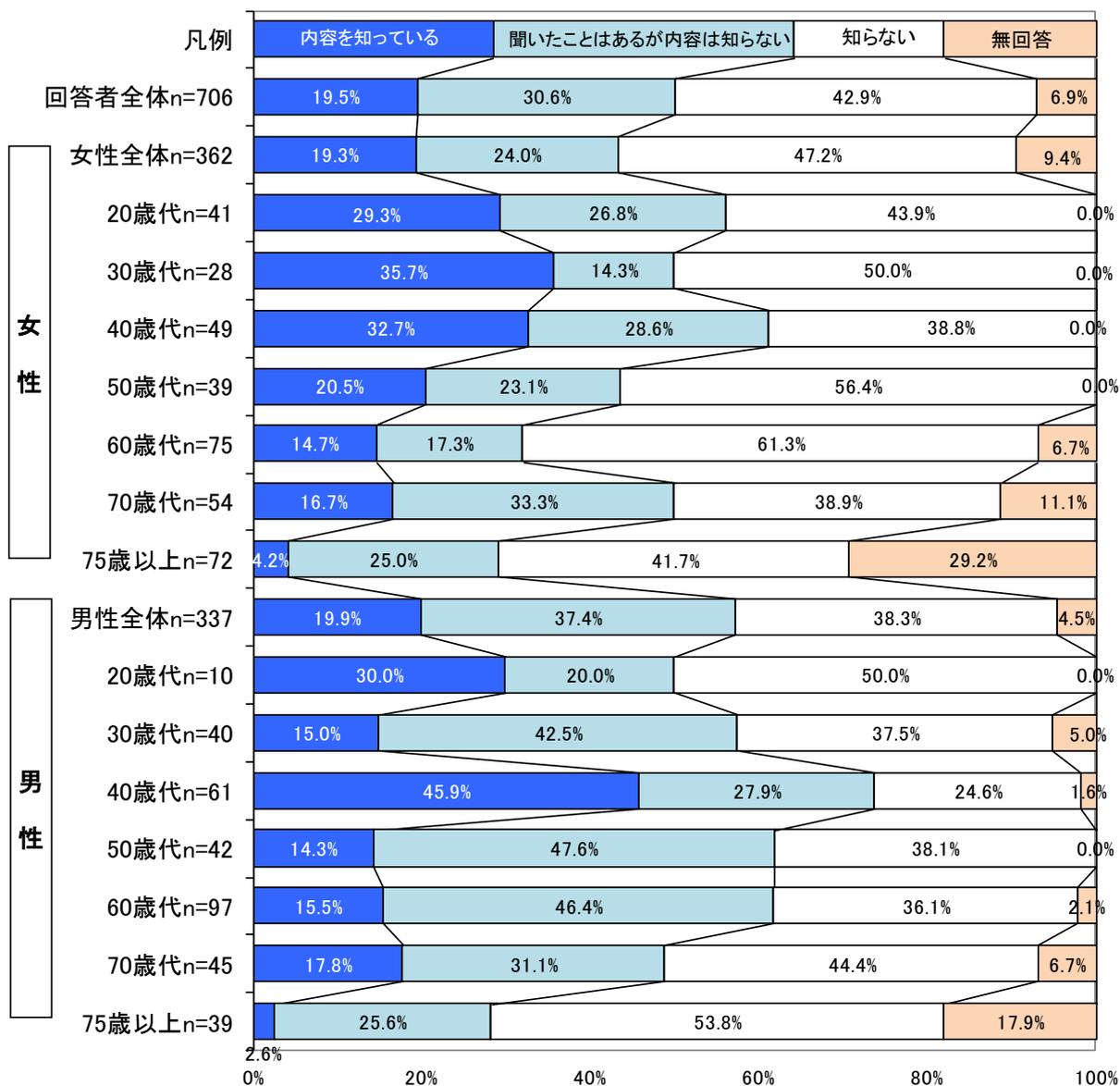
性・年代別にみると、「女性」の『30～40 歳代』と「男性」の『60～70 歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高い。また、「女性」の『50～60 歳代』と「男性」の『50 歳代』では「知らない」の割合が高い。



### 「(キ)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」

性別にみると、「男性」で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」より高くなっている。

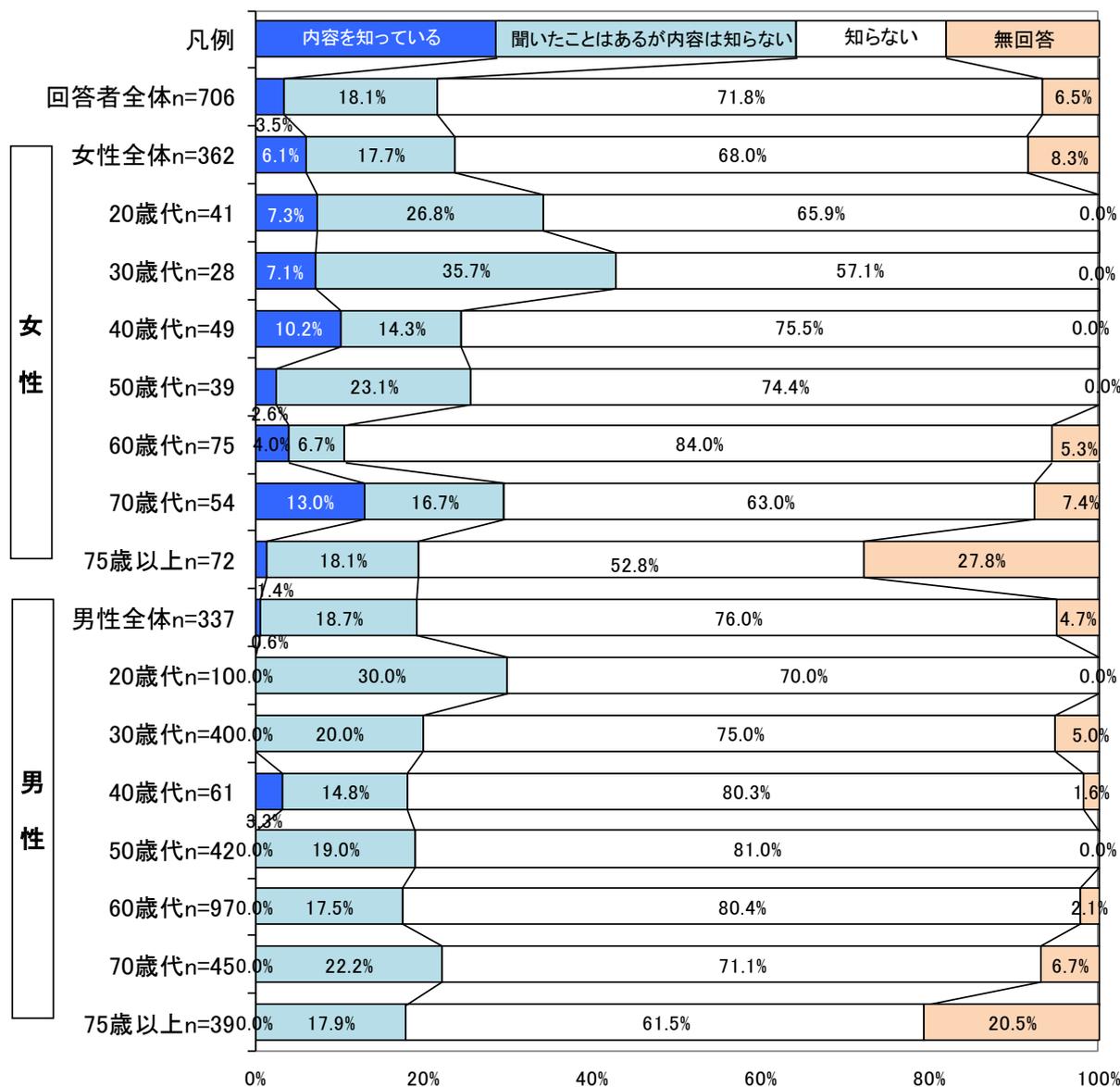
性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』と「男性」の「40 歳代」では「内容を知っている」の割合が高く、「男性」の「30 歳代」と『50～60 歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



### 「(ク)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」よりやや高く、「男性」では「知らない」の割合が「女性」よりやや高い。

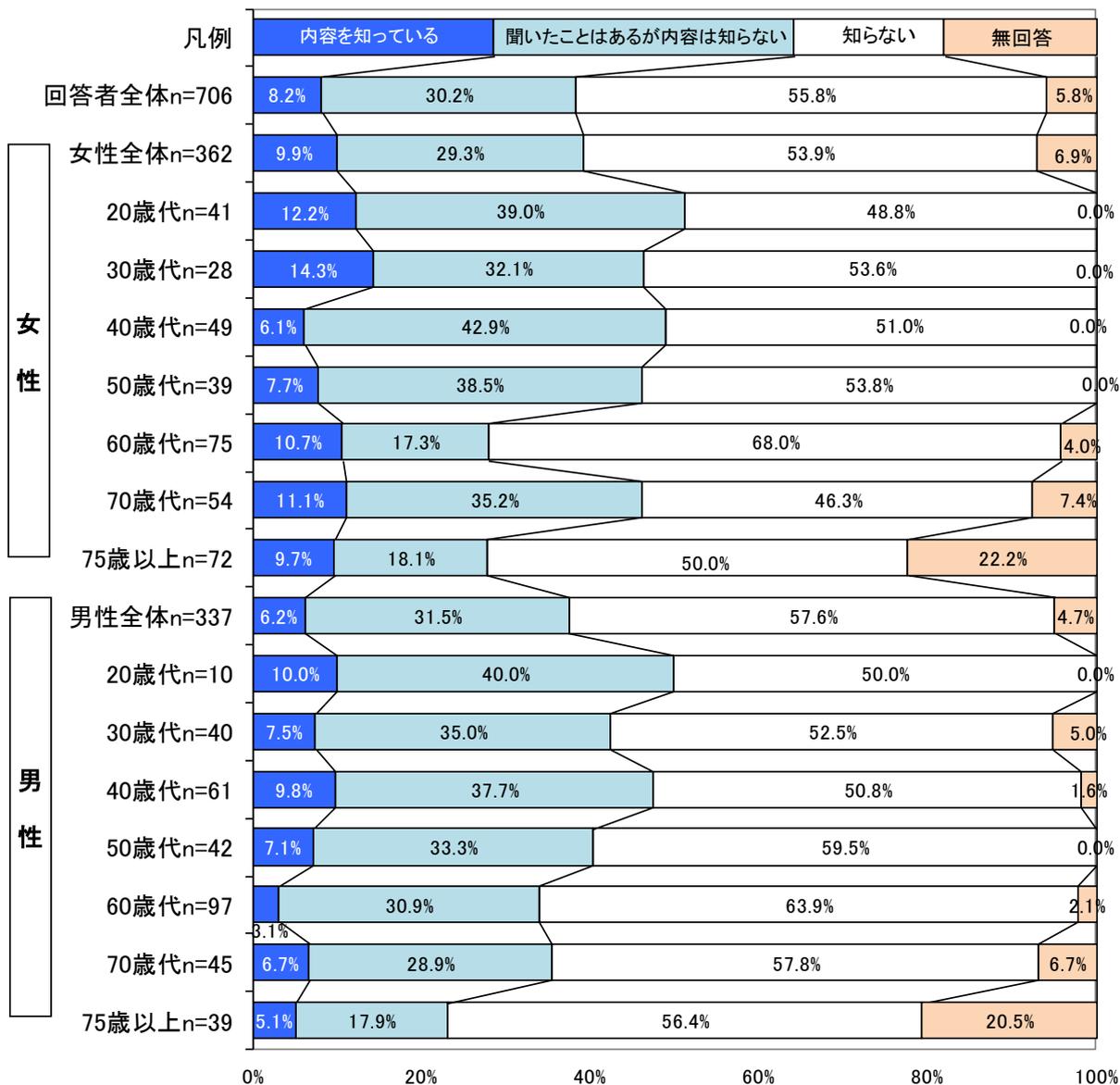
性・年代別にみると、「女性」の「40歳代」と「70歳代」では「内容を知っている」の割合が高い。また「女性」の『30～40歳代』と「50歳代」では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



### 「(ケ)女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」

性別による差は認められない。

性・年代別にみると、「女性」の「30歳代」で「内容を知っている」の割合が高い。また、「女性」の「20歳代」と「40～50歳代」、「70歳代」では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



## 2 男女の地位の平等観

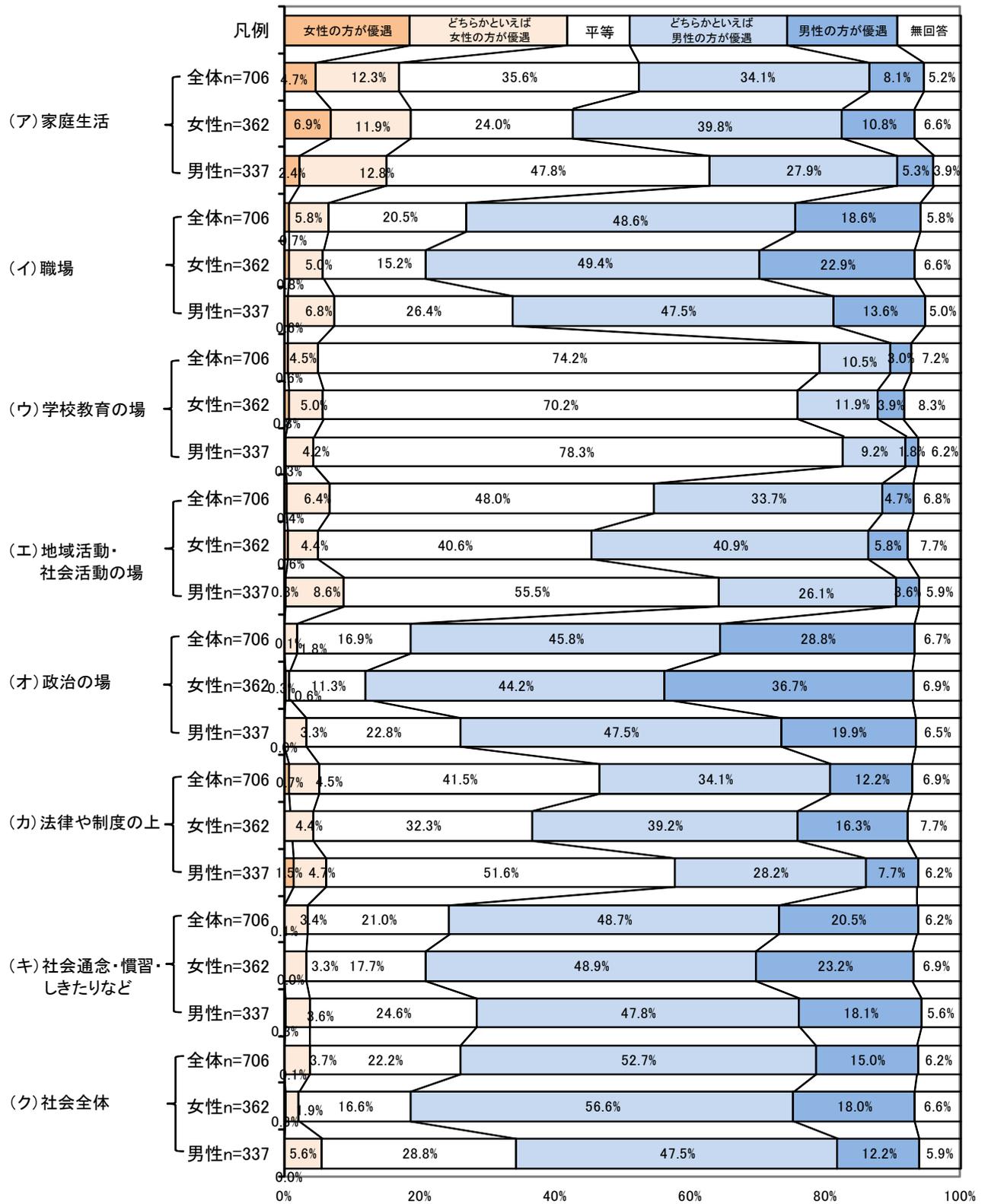
問 21 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)の分野ごとに、あてはまる番号を1 つずつ選んで○をつけてください。

### <全体の結果>

男女の地位の平等観をみると、「社会全体」では『男性の方が優遇』（「男性の方が優遇」+「どちらかといえば男性の方が優遇」）が67.7%となり、「平等」22.2%、『女性の方が優遇』（「女性の方が優遇」+「どちらかといえば女性の方が優遇」）3.8%となっており、男性の方が優遇されていると思っている人の割合が7割近くを占める結果となっている。

『女性の方が優遇』を分野別にみると、「家庭生活」の17.0%が最も高くなっているが、「職場」や「学校教育の場」など他の項目では10%に満たない割合となっている。「平等」を分野別にみると、「学校教育の場」の74.2%が最も高く、これに「地域活動・社会活動の場」の48.0%、「法律や制度の上」の41.5%が続いている。『男性の方が優遇』を分野別にみると、「政治の場」の74.6%が最も高く、これに「社会通念・慣習・しきたりなど」の69.2%、「家庭生活」の67.2%が続いている。

全般的に男性の優遇感が高いものの、家庭や地域、学校など身近なところでは男女平等と思っている人の割合が高くなっているが、職場や政治など組織や団体活動に関わる場所では男性優遇と思っている人の割合が高くなっている。



## <前回との比較>

平成 23 年調査と比較すると、「社会全体」では「平等」が 6.4 ポイント増加し、その分、『男性の方が優遇』（「男性の方が優遇」+「どちらかといえば男性の方が優遇」）が 7.2 ポイント減少している。

『女性の方が優遇』（「女性の方が優遇」+「どちらかといえば女性の方が優遇」）で 5 ポイント以上増減した分野はない。

「平等」で 5 ポイント以上減少した分野は、「地域活動・社会活動の場」（平成 28 年 48.0%、9.0 ポイント増）、「学校教育の場」（平成 28 年 74.2%、8.3 ポイント増）、「社会通念・慣習・しきたりなど」（平成 28 年 21.0%、6.9 ポイント増）、「家庭生活」（平成 28 年 35.6%、5.2 ポイント増）の 4 分野となっている。

『男性の方が優遇』で 5 ポイント以上増減した分野は、「地域活動・社会活動の場」（平成 28 年 38.4%、8.8 ポイント減）、「学校教育の場」（平成 28 年 13.5%、8.1 ポイント減）、「社会通念・慣習・しきたりなど」（平成 28 年 69.2%、8.1 ポイント減）、「家庭生活」（平成 28 年 42.2%、7.7 ポイント減）の 4 分野となっている。

この 5 年間で男性優遇が減少し、平等と思う人の割合が増加したのは、家庭や地域、学校など日常生活に関わる分野や生活慣習となっている。

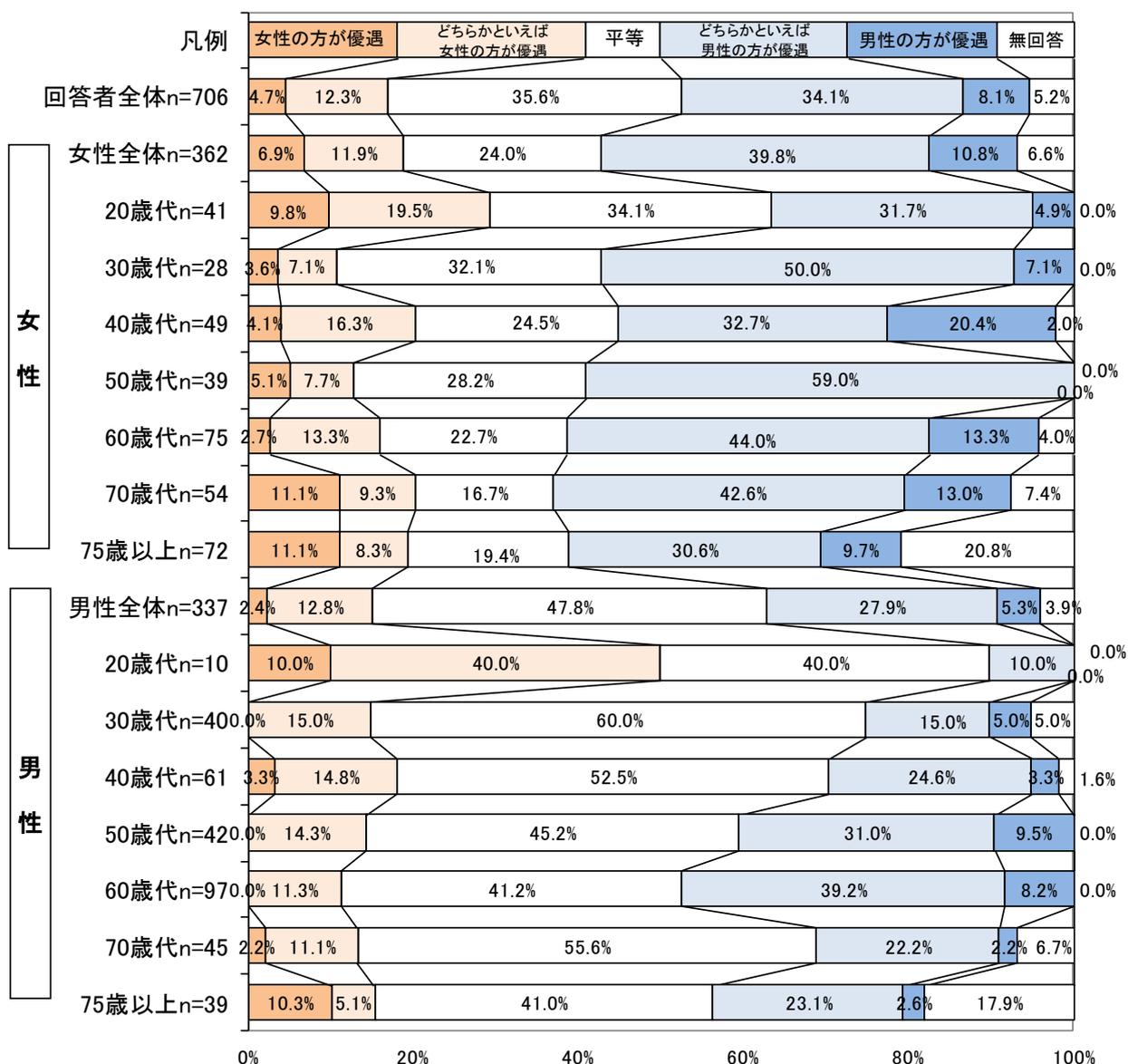
	調査実施年	n	女性の方が優遇	平等	男性の方が優遇	無回答
(ア) 家庭生活	H28年全体	706	17.0	35.6	42.2	5.2
	H23年全体	787	13.9	30.4	49.9	5.8
(イ) 職場	H28年全体	706	6.5	20.5	67.2	5.8
	H23年全体	787	5.8	19.6	68.5	6.2
(ウ) 学校教育の場	H28年全体	706	5.1	74.2	13.5	7.2
	H23年全体	787	3.4	65.9	21.6	9.0
(エ) 地域活動・社会活動の場	H28年全体	706	6.8	48.0	38.4	6.8
	H23年全体	787	6.3	39.0	47.2	7.5
(オ) 政治の場	H28年全体	706	1.9	16.9	74.6	6.7
	H23年全体	787	0.9	16.1	76.2	6.7
(カ) 法律や制度の上	H28年全体	706	5.2	41.5	46.3	6.9
	H23年全体	787	4.3	40.5	47.9	7.2
(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど	H28年全体	706	3.5	21.0	69.2	6.2
	H23年全体	787	2.5	14.1	77.3	6.1
(ク) 社会全体	H28年全体	706	3.8	22.2	67.7	6.2
	H23年全体	787	2.5	15.8	74.9	7.0

## <性別及び性・年代別にみた結果>

### 「(ア) 家庭生活」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

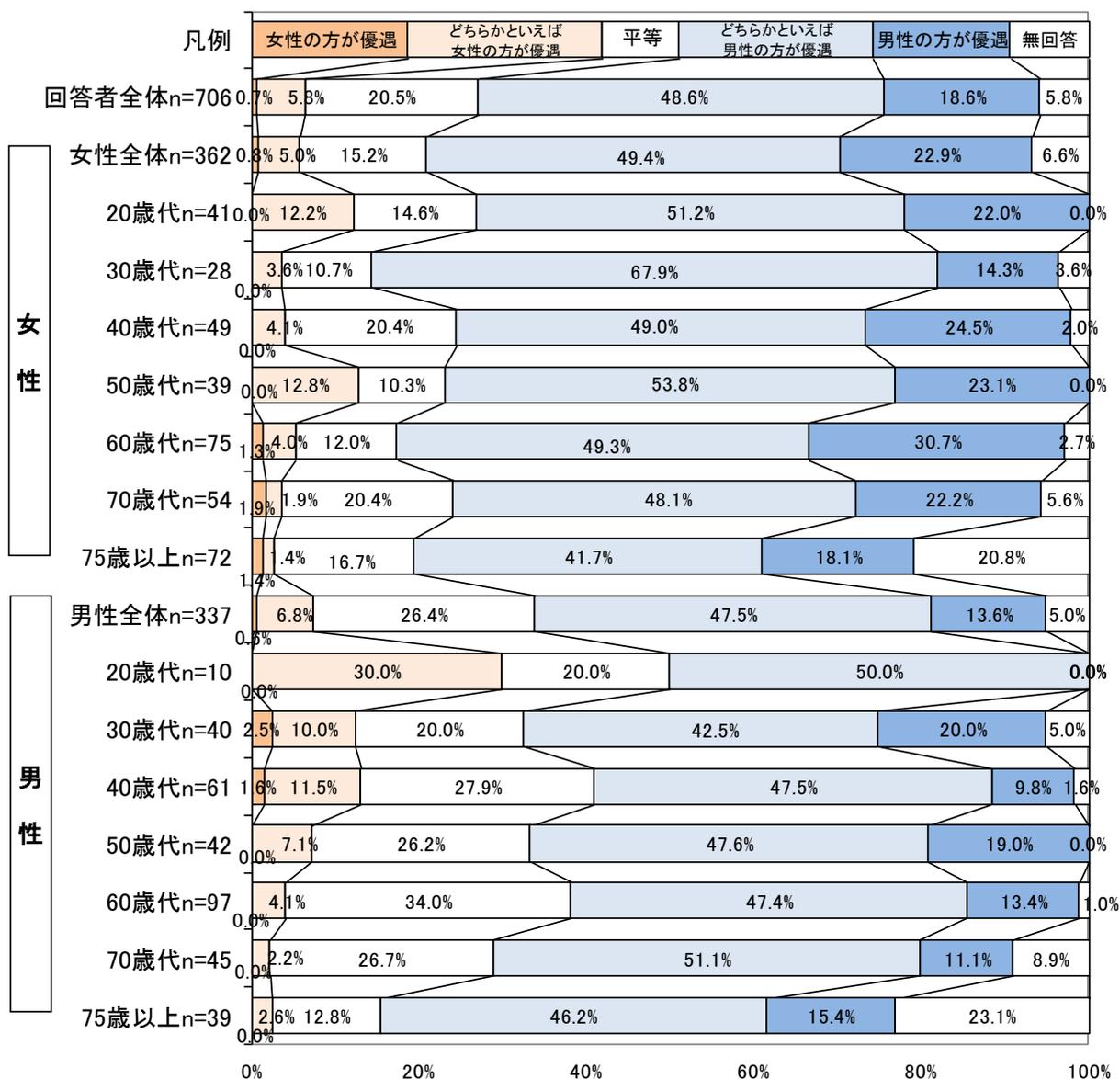
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「女性優遇」と「どちらかといえば女性優遇」の割合がやや高いが、「女性」の『30～70歳代』では「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30歳代以上』では「平等」の割合が高い。



## 「(イ)職場」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

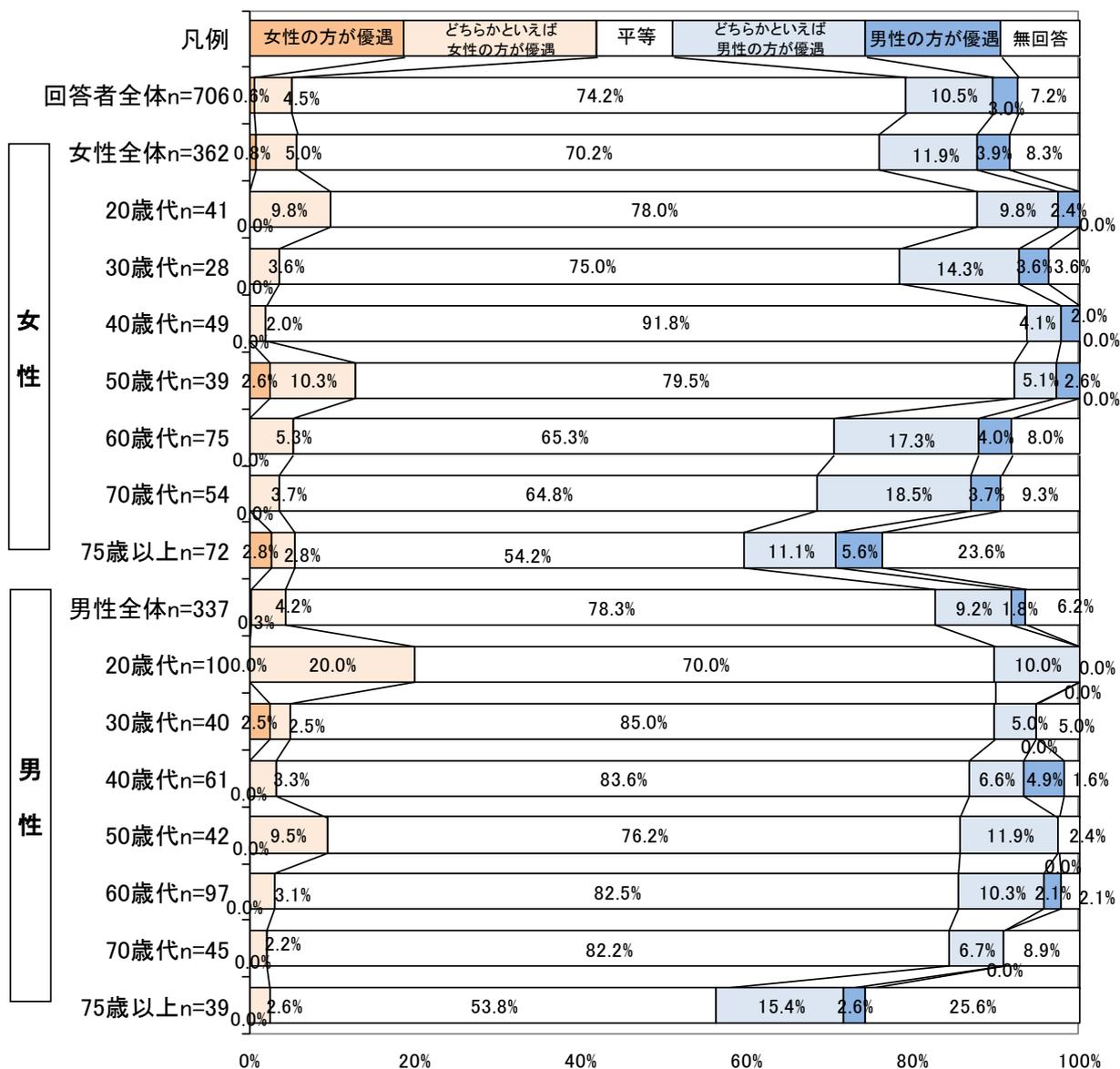
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」と「50歳代」では「どちらかといえば女性優遇」の割合がやや高いが、「女性」の『30～60歳代』では「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『40歳代以上』では「平等」の割合が高い。



## 「(ウ)学校教育の場」

性別にみると、「男性」の「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

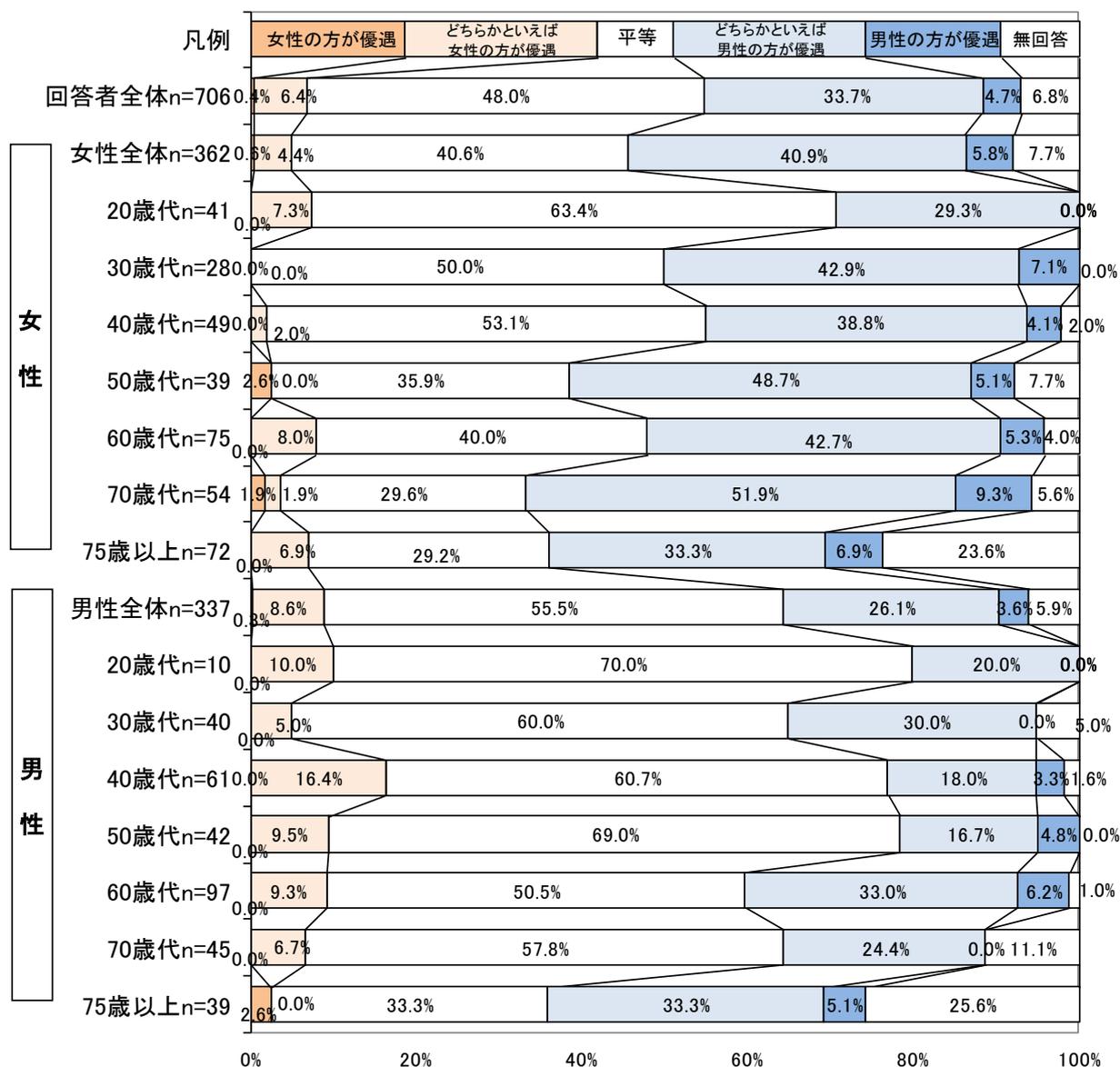
性・年代別にみると、「女性」の『40～50歳代』では「平等」の割合が高いが、「女性」の『60～70歳代』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30歳代以上』では「平等」の割合が高い。



## 「(工)地域活動・社会活動の場」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

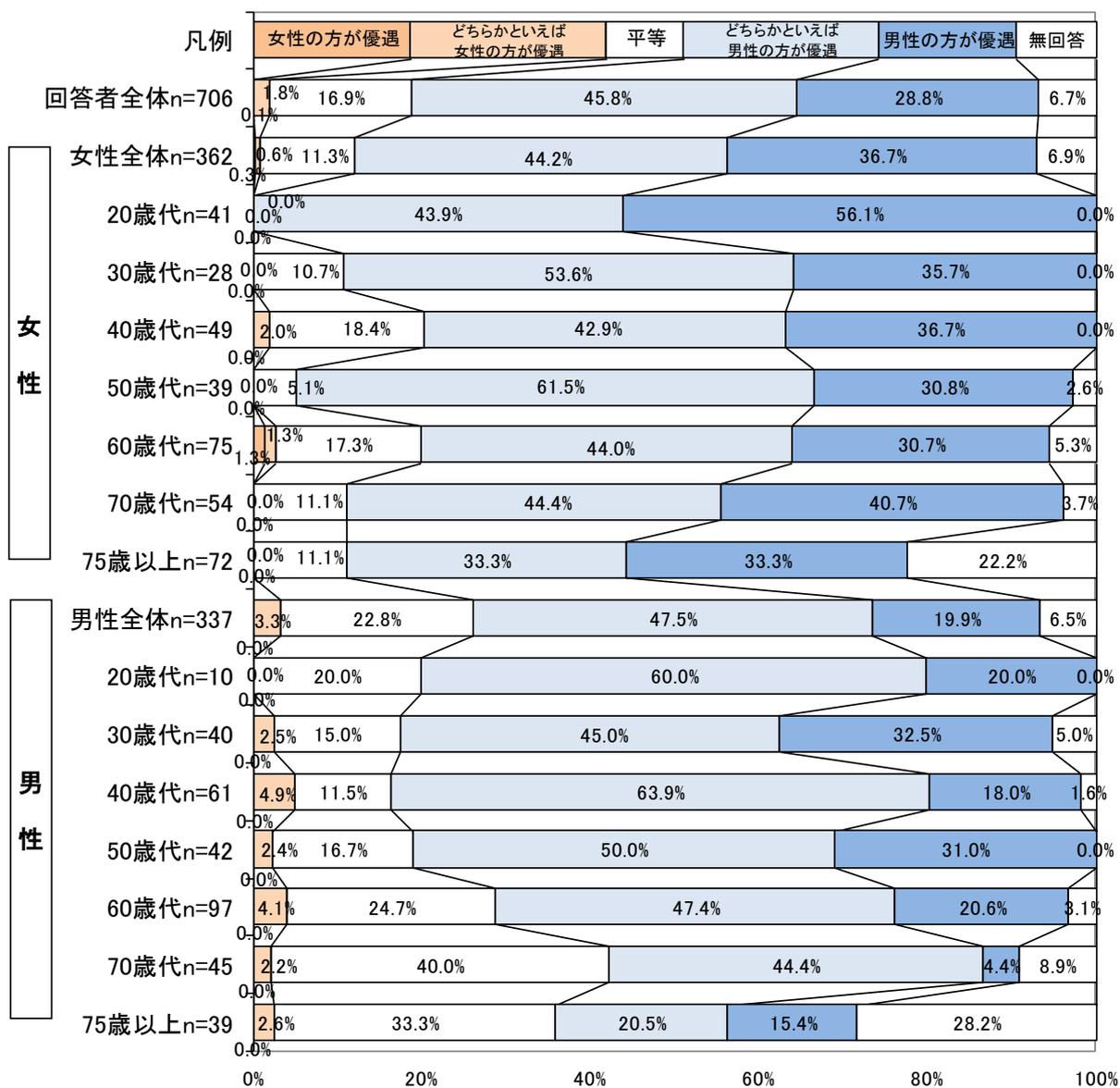
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」と「40歳代」では「平等」の割合が高いが、「女性」の『30～70歳代』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30～70歳代』では「平等」の割合が高い。



## 「(オ)政治の場」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

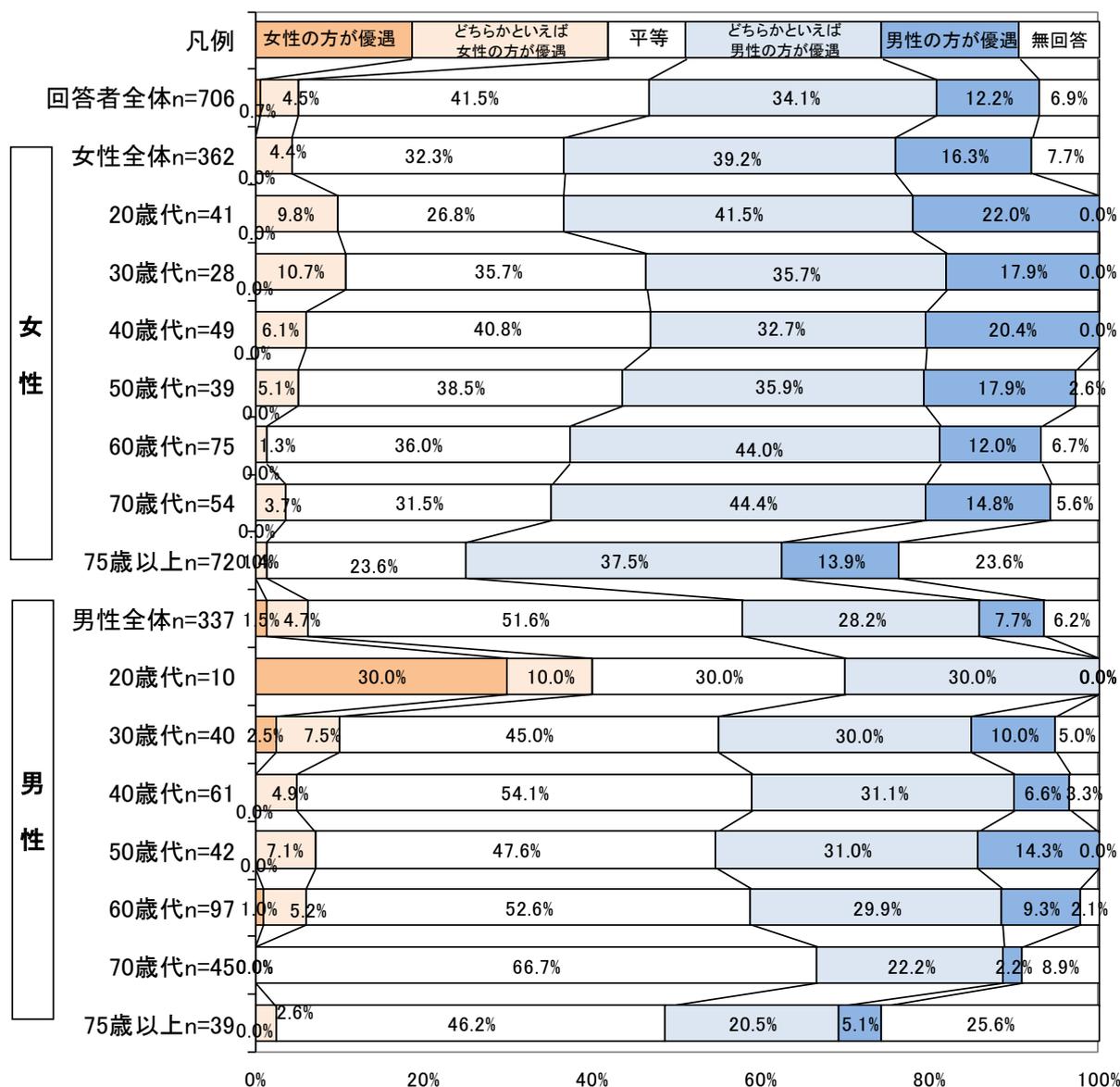
性・年代別にみると、「女性」の『30～40 歳代』と『70 歳代』では「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『60 歳代以上』では「平等」の割合が高い。



## 「(カ)法律や制度の上」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

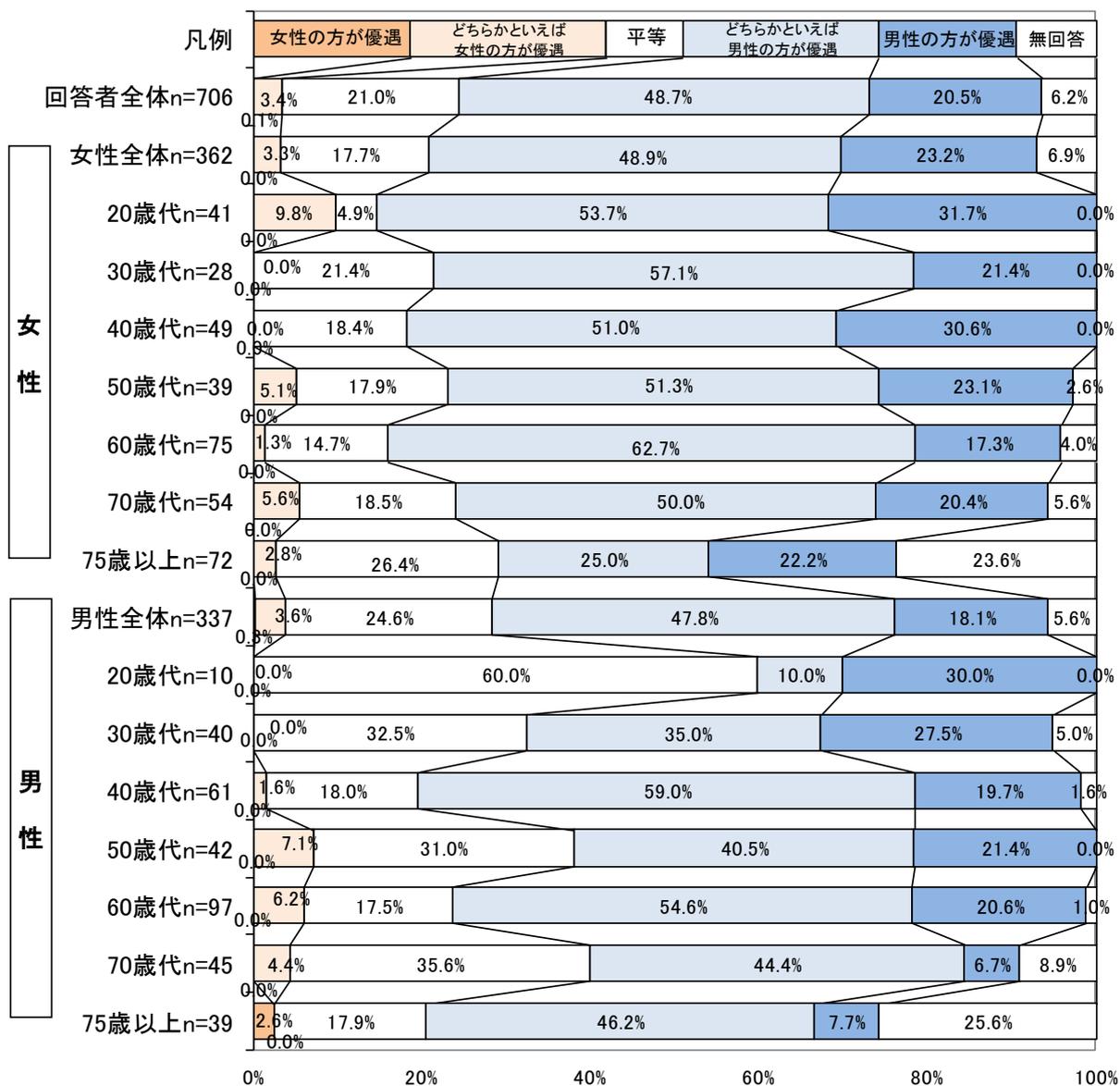
性・年代別にみると、「女性」の『20～50歳代』では「男性優遇」、『60～70歳代』は「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『40～70歳代』で「平等」の割合が高い。



## 「(キ)社会通念・慣習・しきたりなど」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

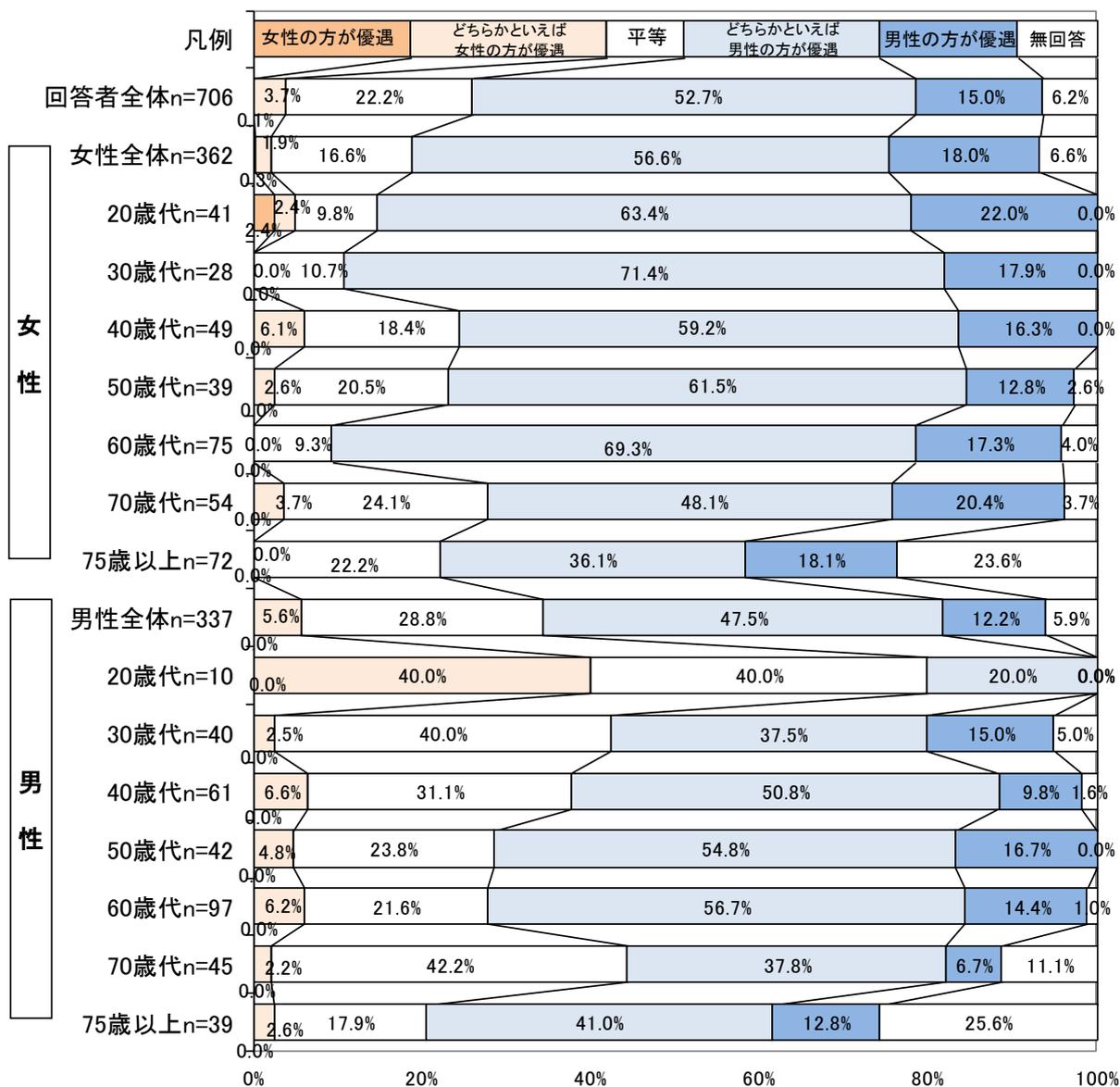
性・年代別にみると、「女性」の「20～30歳代」と「60歳代」では「どちらかといえば男性優遇」、「20歳代」と「40歳代」では「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の「30歳代」と「50歳代」、「70歳代」で「平等」の割合が高く、「40歳代」と「60歳代」では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。



## 「(ク)社会全体」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の割合が高く、「女性」の『30～60歳代』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30～40歳代』と「70歳代」では「平等」の割合が高い。

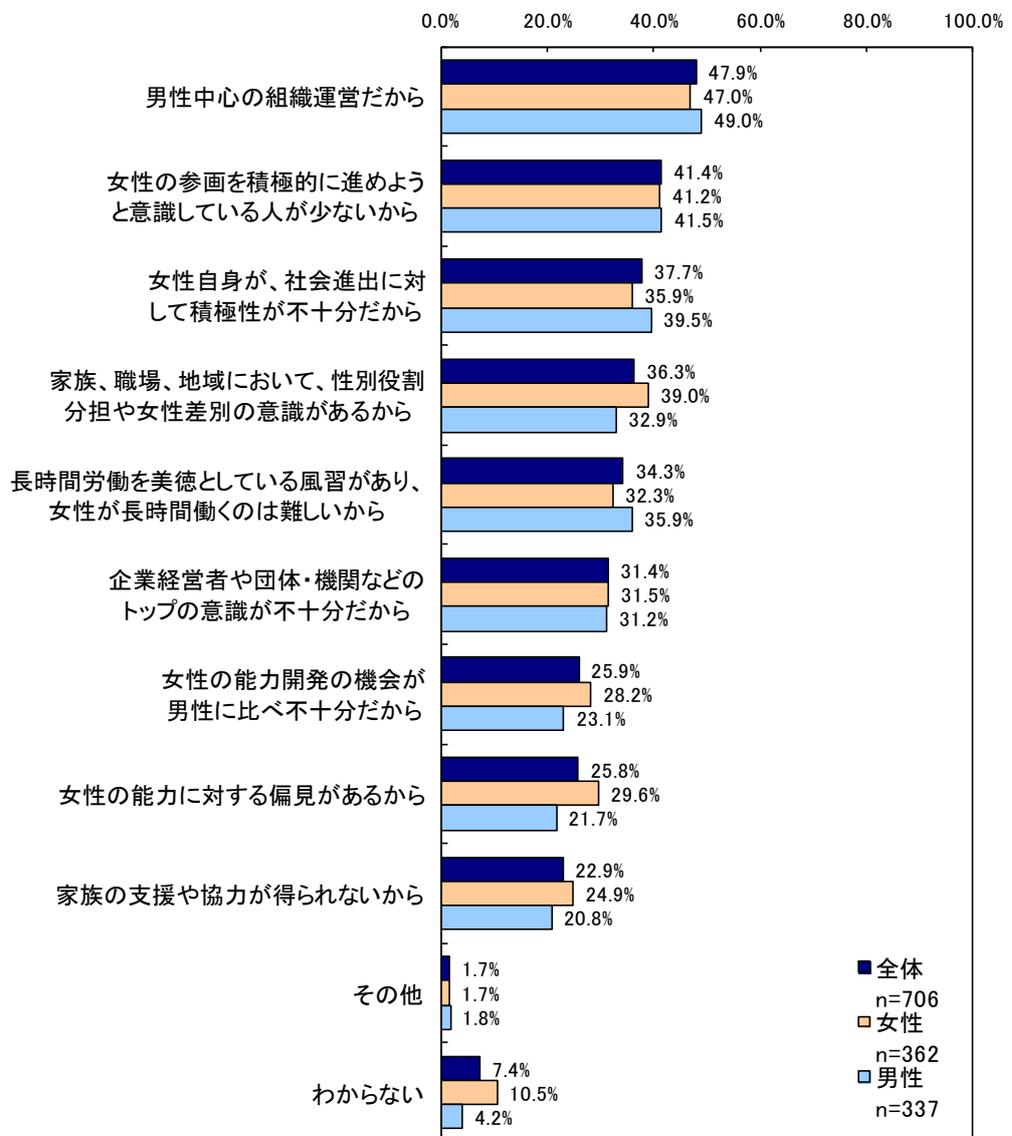


### 3 社会を動かす役職に女性が少ない理由

問 22 あなたは、政治や行政、企業などの様々な分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

#### <全体の結果>

政治や行政、企業などの様々な分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由をみると、「男性中心の組織運営だから」の47.9%が最も多く、これに「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」の41.4%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから」(37.7%)、「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」(36.3%)の順となっている。



## <前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目は皆無で、今回の調査で新設した「長時間労働を美德としている風習があり、女性が長時間働くのは難しいから」が34.3%で5番目に多い割合となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから	35.5	37.7
家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから	38.0	36.3
家族の支援や協力が得られないから	23.8	22.9
女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから	25.7	25.9
男性中心の組織運営だから	47.9	47.9
女性の能力に対する偏見があるから	25.8	25.8
女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから	39.3	41.4
企業経営者や団体・機関などのトップの意識が不十分だから	31.4	31.4
長時間労働を美德としている風習があり、女性が長時間働くのは難しいから	-	34.3
その他	1.4	1.7
わからない	6.0	7.4

## <性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べて「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」と「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」、「女性の能力に対する偏見があるから」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」と『40～50歳代』では「男性中心の組織運営だから」、『60歳以上』では「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」の割合が高くなっている。

一方、「男性」の『60歳以上』では「女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから」の割合が高くなるなど女性自身の課題を指摘する項目が多くなっているほか、『60～70歳代』では「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」や「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」など、女性を後押しする社会的な環境づくりが不十分な内容を挙げた人も多くなっている。

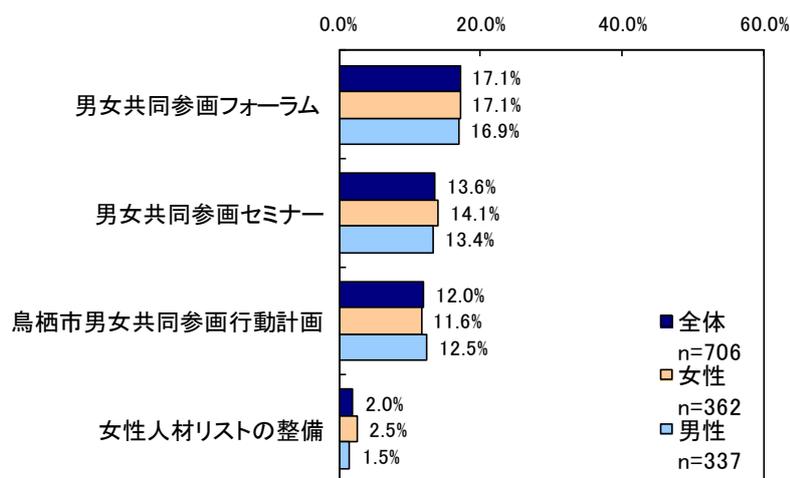
	合計	から女性 対して 積極が 性が、 社会進 出に	差別の 意識が あるか ら	家族、 職割、 地域に おい	家族の 支援助 や協力 が得ら れ	女性に 比べ不 十分の 機会が あり	男性中 心の組 織運営 だか	女性に 対する 偏見	女性と 意識し てい る人	女性に 対する 意識が 不	企業経 営者や 団体・ 機関	長時間 労働を 美徳と して	長時間 労働が あり、 女性か	その他	わから ない
全体	706	266 37.7%	256 36.3%	162 22.9%	183 25.9%	338 47.9%	182 25.8%	292 41.4%	222 31.4%	242 34.3%	12 1.7%	52 7.4%			
女性	小計	362 35.9%	130 39.0%	90 24.9%	102 28.2%	170 47.0%	107 29.6%	149 41.2%	114 31.5%	117 32.3%	6 1.7%	38 10.5%			
	20歳代	41 36.6%	15 53.7%	22 29.3%	12 17.1%	7 56.1%	23 24.4%	10 39.0%	16 26.8%	11 29.3%	2 4.9%	4 9.8%			
	30歳代	28 21.4%	6 39.3%	11 14.3%	4 17.9%	5 50.0%	14 42.9%	12 25.0%	7 25.0%	10 35.7%	8 28.6%	0 0.0%	3 10.7%		
	40歳代	49 26.5%	13 40.8%	20 38.8%	19 22.4%	11 65.3%	32 24.5%	12 40.8%	20 36.7%	18 38.8%	19 2.0%	1 2.0%			
	50歳代	39 33.3%	13 43.6%	17 25.6%	10 20.5%	8 61.5%	24 30.8%	12 48.7%	19 33.3%	13 46.2%	18 5.1%	2 5.1%			
	60歳代	75 36.0%	27 33.3%	25 20.0%	15 32.0%	24 44.0%	33 34.7%	26 40.0%	30 34.7%	26 25.3%	19 0.0%	0 12.0%			
	70歳代	54 46.3%	25 53.7%	29 25.9%	14 42.6%	23 50.0%	27 29.6%	16 51.9%	28 31.5%	17 37.0%	20 0.0%	0 9.3%			
	75歳以上	72 41.7%	30 23.6%	17 22.2%	16 30.6%	22 23.6%	17 26.4%	19 38.9%	28 26.4%	19 29.2%	21 1.4%	1 18.1%			
	無回答	4 25.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 50.0%	2 0.0%	0 0.0%	0 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 25.0%			
	男性	小計	337 39.5%	133 32.9%	70 20.8%	78 23.1%	165 49.0%	73 21.7%	140 41.5%	105 31.2%	121 35.9%	6 1.8%	14 4.2%		
20歳代		10 20.0%	2 20.0%	2 10.0%	1 10.0%	1 60.0%	6 30.0%	3 40.0%	4 10.0%	1 10.0%	1 0.0%	0 0.0%			
30歳代		40 25.0%	10 37.5%	15 25.0%	10 12.5%	5 60.0%	24 22.5%	9 40.0%	16 32.5%	13 35.0%	14 2.5%	2 5.0%			
40歳代		61 41.0%	25 31.1%	19 21.3%	13 11.5%	7 50.8%	31 16.4%	10 34.4%	21 29.5%	18 31.1%	19 4.9%	2 3.3%			
50歳代		42 31.0%	13 33.3%	14 28.6%	12 23.8%	10 52.4%	22 38.1%	16 38.1%	16 33.3%	14 52.4%	22 0.0%	1 2.4%			
60歳代		97 45.4%	44 36.1%	35 20.6%	20 32.0%	31 53.6%	52 22.7%	22 47.4%	46 41.2%	40 32.0%	31 1.0%	1 1.0%			
70歳代		45 46.7%	21 40.0%	18 22.2%	10 31.1%	14 31.1%	14 22.2%	10 48.9%	22 26.7%	12 37.8%	17 2.2%	7 15.6%			
75歳以上		39 46.2%	18 20.5%	8 10.3%	4 25.6%	10 38.5%	15 7.7%	3 38.5%	15 17.9%	7 41.0%	16 0.0%	0 2.6%			
無回答		3 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 33.3%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%			

## 4 鳥栖市の男女共同参画施策の認知状況

問 23 あなたは、鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策をご存じですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

### <全体の結果>

鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策の認知状況をみると、最も割合が高い「男女共同参画フォーラム」でも 17.1%となっており、認知状況は低くなっている。以下、回答割合の高い方から、「男女共同参画セミナー」(13.6%)、「鳥栖市男女共同参画行動計画」(12.0%)、「女性人材リストの整備」(2.0%)の順となっている。



### <前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減した項目は、「鳥栖市男女共同参画行動計画」(平成 28 年 12.0%、5.4 ポイント減)となっている。他の施策については、差は認められない。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
鳥栖市男女共同参画行動計画	17.4	12.0
男女共同参画フォーラム	17.9	17.1
男女共同参画セミナー	13.1	13.6
女性人材リストの整備	1.5	2.0
女性と人権セミナー	7.9	-

## <性別及び性・年代別にみた結果>

性別による差は認められない。

性・年代別にみても大きな差は認められないが、「鳥栖市男女共同参画行動計画」は「30歳代」と「70歳代以上」の割合がやや高くなっている。他の施策も「70歳代」を中心に認知度がやや高くなっている。

	合計	計 鳥 画 栖 市 男 女 共 同 参 画 行 動	男 女 共 同 参 画 フ ォ ー ラ ム	男 女 共 同 参 画 セ ミ ナ ー	女 性 人 材 リ ス ト の 整 備	
全体	706	85	121	96	14	
		12.0%	17.1%	13.6%	2.0%	
女性	小計	362	42	62	51	9
			11.6%	17.1%	14.1%	2.5%
	20歳代	41	1	2	5	1
			2.4%	4.9%	12.2%	2.4%
	30歳代	28	4	5	3	3
			14.3%	17.9%	10.7%	10.7%
	40歳代	49	5	9	4	2
			10.2%	18.4%	8.2%	4.1%
	50歳代	39	3	7	7	2
			7.7%	17.9%	17.9%	5.1%
60歳代	75	8	15	11	0	
		10.7%	20.0%	14.7%	0.0%	
70歳代	54	9	9	10	0	
		16.7%	16.7%	18.5%	0.0%	
75歳以上	72	12	15	11	1	
		16.7%	20.8%	15.3%	1.4%	
無回答	4	0	0	0	0	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
男性	小計	337	42	57	45	5
			12.5%	16.9%	13.4%	1.5%
	20歳代	10	0	1	1	0
			0.0%	10.0%	10.0%	0.0%
	30歳代	40	7	5	3	0
			17.5%	12.5%	7.5%	0.0%
	40歳代	61	4	10	4	2
			6.6%	16.4%	6.6%	3.3%
	50歳代	42	2	4	5	1
			4.8%	9.5%	11.9%	2.4%
60歳代	97	12	20	14	0	
		12.4%	20.6%	14.4%	0.0%	
70歳代	45	10	11	11	1	
		22.2%	24.4%	24.4%	2.2%	
75歳以上	39	7	5	7	1	
		17.9%	12.8%	17.9%	2.6%	
無回答	3	0	1	0	0	
		0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	

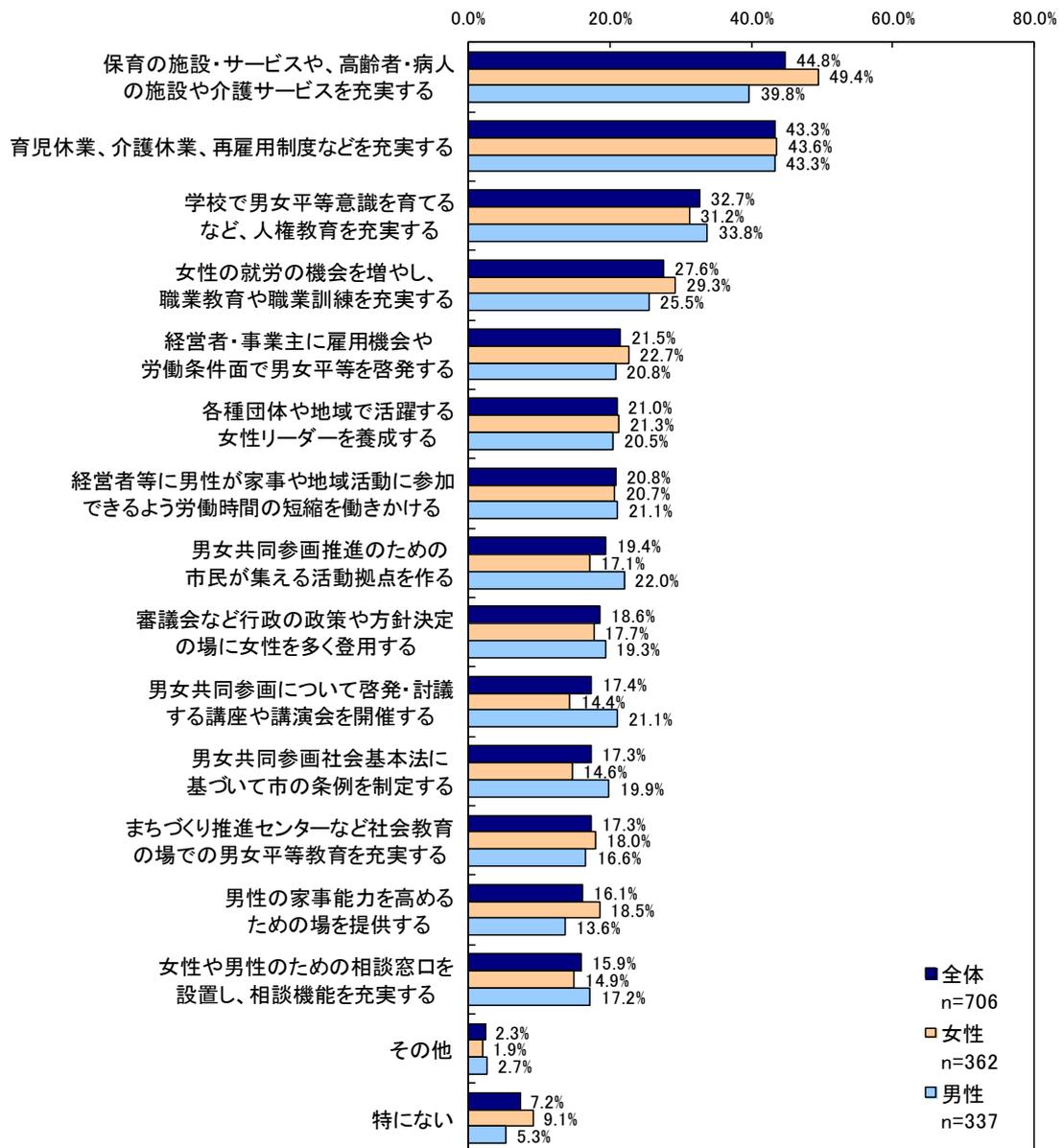
## 5 男女共同参画社会づくりを進めるために市で力を入れるべきこと

問 24 あなたは、男女共同参画社会づくりを進めるために、鳥栖市は今後何に力を入れるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

### <全体の結果>

男女共同参画社会づくりを進めるために、鳥栖市は今後何に力を入れるべきだと思うかについては、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」の44.8%が最も多く、これに「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」の43.3%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する」(32.7%)、「女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する」(27.6%)の順となっている。

福祉サービスの充実や休業及び再雇用制度及び女性の就労機会の充実、学校での人権教育の充実など、日常生活面での女性に対する支援や子どものころからの人権教育を求める項目の割合が高くなっている。



## <前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上増加した項目は、「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」(平成28年17.3%、7.1ポイント増)、「各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する」(平成28年21.0%、5.6ポイント増)であり、いずれも平成23年調査と内容を多少変更した選択肢となっている。同じく5ポイント以上減少した項目は、「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」(平成28年43.3%、5.6ポイント減)となっており、選択率自体は高いが、割合の高い順では23年の1位から2位になっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
男女共同参画社会基本法に基づいて市の条例を制定する	16.8	17.3
男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る	16.9	19.4
審議会など行政の政策や方針決定の場に女性を多く登用する	18.6	18.6
学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する	30.0	32.7
まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する	10.2	17.3
各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する	15.4	21.0
女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する	17.2	15.9
男性の家事能力を高めるための場を提供する	17.9	16.1
育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する	48.9	43.3
保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する	47.0	44.8
経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する	21.2	21.5
経営者等に男性が家事や地域活動に参加できるよう労働時間の短縮を働きかける	18.3	20.8
女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する	28.7	27.6
男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する	14.2	17.4
その他	2.3	2.3
特になし	7.2	7.2

※平成28年調査と23年調査の選択肢の違いは、以下のとおり。

- ・28年「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」⇒23年「公民館など社会教育の場での男女平等教育を充実する」
- ・28年「各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する」⇒23年「女性団体活動の女性や女性リーダーを養成する」
- ・28年「男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する」⇒23年「各種講座・講演会を開催し、社会活動の情報を提供する」

## <性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べて「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」の割合が高くなっている。一方、「男性」は「女性」と比べて「男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る」と「男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」で全体平均よりも5ポイント以上高くなっているのは、「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」(70.7%)、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」(同)、「経営者等に男性が家事や地域活動に参加できるよう労働時間の短縮を働きかける」(41.5%)、「男性の家事能力を高めるための場を提供する」(39.0%)、「各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する」(31.7%)、「女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する」(26.8%)の6項目と他の層と比べ多くなっている。

「女性」の「30歳代」で全体平均よりも5ポイント以上高くなっているのは、「学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する」(39.3%)、「女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充

実する」(同)、「男性の家事能力を高めるための場を提供する」(25.0%)、「女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する」(21.4%)の4項目となっている。

「女性」の『60歳代以上』では、「男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る」と「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」など、生涯学習や地域展開に関わる項目の割合が比較的高くなっており、「男性」の『50～70歳代』でも「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」の割合が40%前後の割合で高くなっている。

	合計	男女共同参画社会基本法に基づいて市共同参画活動拠点を定めるための市民	男女共同参画推進のための市民	審議会など行政の政策や方針決定の場に女性を多く登用する	学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する	まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する	各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する	女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する	男性の家事能力を高めるための場を提供する	育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する	保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービス	経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する	短縮を働きかけるよう労働時間等の活動に参加できるような働き方	職業教育や職業訓練を充実する、職業教育の機会を増やす	男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する	その他	特になし	
全体	706	122	137	131	231	122	148	112	114	306	316	152	147	195	123	16	51	
		17.3%	19.4%	18.6%	32.7%	17.3%	21.0%	15.9%	16.1%	43.3%	44.8%	21.5%	20.8%	27.6%	17.4%	2.3%	7.2%	
女性	小計	362	53	62	64	113	65	77	54	67	158	179	82	75	106	52	7	33
			14.6%	17.1%	17.7%	31.2%	18.0%	21.3%	14.9%	18.5%	43.6%	49.4%	22.7%	20.7%	29.3%	14.4%	1.9%	9.1%
	20歳代	41	3	2	7	11	5	13	11	16	29	29	9	17	13	2	2	3
			7.3%	4.9%	17.1%	26.8%	12.2%	31.7%	26.8%	39.0%	70.7%	70.7%	22.0%	41.5%	31.7%	4.9%	4.9%	7.3%
	30歳代	28	3	3	5	11	5	5	6	7	12	10	6	7	11	3	1	1
			10.7%	10.7%	17.9%	39.3%	17.9%	17.9%	21.4%	25.0%	42.9%	35.7%	21.4%	25.0%	39.3%	10.7%	3.6%	3.6%
	40歳代	49	5	4	4	15	9	7	8	8	17	24	10	10	18	4	3	6
			10.2%	8.2%	8.2%	30.6%	18.4%	14.3%	16.3%	16.3%	34.7%	49.0%	20.4%	20.4%	36.7%	8.2%	6.1%	12.2%
	50歳代	39	4	7	6	10	1	9	6	7	19	23	9	12	16	7	0	1
			10.3%	17.9%	15.4%	25.6%	2.6%	23.1%	15.4%	17.9%	48.7%	59.0%	23.1%	30.8%	41.0%	17.9%	0.0%	2.6%
60歳代	75	8	20	14	22	14	18	6	12	30	34	21	7	19	14	0	7	
		10.7%	26.7%	18.7%	29.3%	18.7%	24.0%	8.0%	16.0%	40.0%	45.3%	28.0%	9.3%	25.3%	18.7%	0.0%	9.3%	
70歳代	54	14	13	11	19	14	14	7	8	26	27	16	13	14	11	0	4	
		25.9%	24.1%	20.4%	35.2%	25.9%	25.9%	13.0%	14.8%	48.1%	50.0%	29.6%	24.1%	25.9%	20.4%	0.0%	7.4%	
75歳以上	72	15	13	17	24	17	11	9	9	24	31	11	9	15	11	1	10	
		20.8%	18.1%	23.6%	33.3%	23.6%	15.3%	12.5%	12.5%	33.3%	43.1%	15.3%	12.5%	20.8%	15.3%	1.4%	13.9%	
無回答	4	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	
男性	小計	337	67	74	65	114	56	69	58	46	146	134	70	71	86	71	9	18
			19.9%	22.0%	19.3%	33.8%	16.6%	20.5%	17.2%	13.6%	43.3%	39.8%	20.8%	21.1%	25.5%	21.1%	2.7%	5.3%
	20歳代	10	1	2	2	4	1	3	2	4	8	3	1	3	4	1	0	0
			10.0%	20.0%	20.0%	40.0%	10.0%	30.0%	20.0%	40.0%	80.0%	30.0%	10.0%	30.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	40	6	8	9	10	6	6	8	7	19	19	9	8	10	5	2	2
			15.0%	20.0%	22.5%	25.0%	15.0%	15.0%	20.0%	17.5%	47.5%	47.5%	22.5%	20.0%	25.0%	12.5%	5.0%	5.0%
	40歳代	61	8	11	10	19	8	18	15	12	24	29	10	16	18	11	3	1
			13.1%	18.0%	16.4%	31.1%	13.1%	29.5%	24.6%	19.7%	39.3%	47.5%	16.4%	26.2%	29.5%	18.0%	4.9%	1.6%
	50歳代	42	13	10	11	16	7	4	7	4	25	20	6	8	18	7	3	3
			31.0%	23.8%	26.2%	38.1%	16.7%	9.5%	16.7%	9.5%	59.5%	47.6%	14.3%	19.0%	42.9%	16.7%	7.1%	7.1%
60歳代	97	22	22	21	39	16	17	16	13	44	40	24	22	23	23	0	4	
		22.7%	22.7%	21.6%	40.2%	16.5%	17.5%	16.5%	13.4%	45.4%	41.2%	24.7%	22.7%	23.7%	23.7%	0.0%	4.1%	
70歳代	45	8	12	7	17	12	11	4	4	18	13	12	9	9	12	1	3	
		17.8%	26.7%	15.6%	37.8%	26.7%	24.4%	8.9%	8.9%	40.0%	28.9%	26.7%	20.0%	20.0%	26.7%	2.2%	6.7%	
75歳以上	39	9	9	5	9	6	10	6	2	8	9	8	4	4	12	0	5	
		23.1%	23.1%	12.8%	23.1%	15.4%	25.6%	15.4%	5.1%	20.5%	23.1%	20.5%	10.3%	10.3%	30.8%	0.0%	12.8%	
無回答	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

女性問題や男女共同参画社会についてのご意見やご要望等がありましたら、自由に記入してください。

女性問題や男女共同参画社会についてのご意見やご要望に関する主な意見は以下の通り。

主な意見	件数
子育て支援の充実を求める意見 「子どもとの時間を犠牲にしてまで働きたくないが働かなければならない現状。男女共同参画と子育て支援は同時進行であるべき」「『子育てサービスが充実している鳥栖市』『住みやすい鳥栖市』で九州を代表する田舎町になってほしい」など	16 件
アンケートに関する意見 「意識調査の結果を教えてほしい」「今からは若い人たちの時代だから、若い人たちを主にアンケートを行い鳥栖市が発展することを願っている」など	11 件
広報の充実を求める意見 「資料を各家庭に配布すべき」「鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策について具体的に教えてほしい」など	6 件
人権尊重に関する意見 「男性女性と区別せずに、ひとりの人間として考えるようになれば、世の中違ってくるのではないか」「女性が家庭に入るも職を選ぶも自由。男性だから必ず仕事をするということでもないと思う。人それぞれなので、男性だから女性だからと言われることがなくなるとよい」など	6 件
学校教育の充実を求める意見 「学校教育にもっと男女共同参画社会を取り上げるべき」「まずは子どもたちに係る教育の現場から発信してほしい」など	5 件
女性の意識向上を求める意見 「女性の自覚が自発的に発生しなければ、どんなに行政でその場を設けてもそれ以上の発展はないと思う」「今は男社会になっているのは認めるが、女性も男性を頼りすぎている。女性の奮起を期待している」など	5 件
性差を踏まえた施策等を望む意見 「男女に体格、体力、性格の違いがあることを踏まえ、役割の考え方ではなく、男女が持つ能力や個性をより活かせるように取り組めばよい」「男女の肉体的、精神的な特性を理解しそれぞれの特性を活かす、伸ばす施策を。単純に男女平等と安易に全てを同じにすることはやめてほしい」など	5 件
性別役割を重視する意見 「男と女それぞれの役割があるはず。それを認めあった上での女性進出なら応援してあげるべき。女性にも優秀な方が多くいる」「男女どちらが優れている、偉いのではない。役割があると思うだけ。女性が社会に進出することが全て良いことだとは思わない」など	5 件
男女共同参画社会についてわからないという意見 「男女共同参画社会の内容を知らないので意見がない」「男女共同参画社会とは具体的にどのようなことなのか」など	5 件

主な意見	件数
啓発に関する意見	4 件
「啓発や講演会等を行ってほしい」など	
女性管理職登用に期待する意見	4 件
「女性が活躍できるポジションには積極的に女性を登用すべき」「民間、役所を問わず鳥栖市には女性管理職者が少ないと思う。女性にはこれからの人材を育成できる知恵、アイデア、経験、ユニークな発想など多方面に期待できるのではないかなど	
男女共同参画社会の実現には家族の協力が必要という意見	3 件
「家族の理解、協力が得られないと家事が忙しくて時間もない」「結婚10年以降は男性、女性共に稼ぎに出るようになり子ども達は料理、洗濯等と家事をするようにしていた」など	
中高年の意識改革を求める意見	3 件
「若い方の男女平等の意識は高いが、50代以上の方は低い。女性が出産後に仕事をすることに偏見を持っている。会社の役職がある方、経営陣への意識改革が必要」「問題なのは中高年の方々。女性が家事も育児も介護もやるのが当たり前と思っている人が多い」など	
男性の意識改革を求める意見	3 件
「結婚、家事、出産、介護面では女性に負担が多いので、男性はもっと意識を変えて協力してほしい」「まだまだ男性中心組織では女性に対する偏見がある」など	
社会の意識の変化に関する意見	3 件
「職場での男女差別は感じたことはない。どちらかと言えば、社会にそうせざるを得ないシステムがある」「今は男女共同、昔と時代が違う。女性が強く生きられる時代になったと思う」	
相談窓口の充実を求める意見	3 件
「職場や家庭内の問題を気軽に相談できる窓口があればよいと思う。子ども、女性、高齢者、外国人、仕事、家庭をよりよくするための地域を見守ってほしい」など	
LGBTに関する認識を求める意見	2 件
「LGBTの人々もいるので男女だけでなく、いろいろな人々がいて平等という勉強も必要」「教育に携わっている人の中にもLGBTを知らない人がいる」	
不妊治療の支援を求める意見	2 件
「不妊治療休暇も積極的に男女ともに取れるような市になってほしい」「少子化については晩婚化による年齢的な理由で子どもが欲しくてもできない人が増えているので、不妊治療等への支援、補助がもっと手厚くなればよいのではないかなど	
少子化に関する意見	2 件
「男女ともに相手を正しく選んで素晴らしい人生を送ってほしい」「佐賀県内だけでなく他県からの縁組などがあればよい」	